

POSC's 2025

社会貢献活動年間報告書



POSC's 2025 社会貢献活動年間報告書

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構

社会貢献活動年間報告書



POSC (Pachinko-Pachislot Organization of Social Contribution)
一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構

〒162-0844
東京都新宿区市谷八幡町16 市ヶ谷見附ハイム103
TEL 03-5227-1047 FAX 03-5227-1049
<https://www.posc.or.jp>

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構

柔軟な思想と姿勢で持続可能な社会の実現に取り組む

一般社団法人
パチンコ・パチスロ社会貢献機構
代表理事

宮廻 正明



皆様方におかれましては、益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より賜っておりますご支援、ご協力に対しまして、改めてお礼申し上げます。

さて、当機構は前身となる「全日本社会貢献団体機構」時代を含め、2025年に設立から20年という節目の年を迎えました。この間、学術・文化の振興、子どもの健全育成などの分野で活動する団体への助成、さらに2011年以降は東日本大震災をはじめ日本各地で続発する様々な自然災害の復旧・復興支援に取り組む団体への助成を行うとともに、遊技業界が日本各地で展開する優れた社会貢献活動に対する顕彰を行ってきました。また、2019年からは社会的にも関心の高い「パチンコ・パチスロ依存問題の予防や解決に取り組む事業・研究」への助成も実施してきました。

20年の歴史の中で、社会状況も大きく変わりました。とりわけ当機構の基盤となる遊技業界はとても厳しい状況が続いています。それに対応するため2024年度から業務のあり方を大きく見直すことにしました。日本全国各地で開催し地元の皆様との「ふれあいの場」となってきた「社会貢献フォーラム」は当面実施を中止します。「社会貢献大賞表彰式、助成金贈呈式」は形を変えて実施することになりました。さらに当報告書もコンパクト化し、より読みやすい形にいたしました。

さらなる業務効率化を含め、当機構では今後も時代を見据えた柔軟な思考と姿勢のもと、持続可能な社会の実現に向け、助成事業や顕彰事業などの各種事業に継続的に取り組んでいく所存です。皆様のより一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



1	宮廻正明 代表理事 ごあいさつ	
3	機構の目的・事業内容	
5	表彰式	
6	助成団体感謝の声「届いています。支援のチカラ。」	
8	助成団体 認定証授与式	
9	助成事業	
●	パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援	
9	「妊産婦のギャンブル依存症の改善」事業	
10	「パチンコ・パチスロ依存は『病気』ではなく『健康問題』であることを周知する」事業	
11	「罪を犯した人たちの自立支援・再犯防止」事業	
12	「養成研修及び自殺防止啓発活動」事業	
13	「女性の依存症者の居場所作りと地域連携フォーラムの開催」事業	
14	「高知・女性支援交流と学び」事業	
15	「電話相談活動・相談員養成・自死遺族支援」事業	
16	「依存問題に関わる方々と共に『回復に必要な居場所を作ろう』」事業	
17	「依存症者の再発を防ぐためのイベント開催」事業	
●	子どもの健全育成に取り組む事業への支援	
18	「過疎地域における住民主導の子育て支援体制整備」事業	
19	「英語無料塾を開始して2年目、成果を挙げたため継続資金」事業	
20	「障がい児、闘病児の為の夏祭り」事業	
21	「東京のこども食堂の食糧分配システム構築」事業	
22	「奨学金給付」事業	
23	「バイクスクール」事業	
24	「困難な問題を抱える女性と子どものための一時保護施設の運営」事業	
25	「金沢ゆめ街道2025」事業	
26	「ドリームキッチン」事業	
27	「難聴障がい児の居場所デファカデミー『共存プロジェクト』」事業	
28	「過疎地域の困難を抱えるこどもへの食事支援」事業	
29	「学生服おゆずり会」事業	
30	「卒園生 壮行会」事業	
●	特命助成	
31	「ぱちんこ依存問題に関する相談および回復支援」事業	
32	顕彰事業	
●	社会貢献大賞	
32	大阪府遊技業協同組合「特殊詐欺（ロマンス詐欺等）被害防止啓発活動」事業	
●	最優秀賞	
34	《都道府県組合部門》熊本県遊技業協同組合「『電話で「お金」詐欺』等対策マスコット『フルモン』を用いた被害防止対策支援」事業	
35	《支部組合部門》焼津市遊技業組合（静岡県遊技業協同組合）「地元警察署と連携した『特殊詐欺被害防止活動』」事業	
36	《組合員ホール部門》三重県 株式会社キング観光「キング観光コミュニティアシストR7」事業	
●	優秀賞	
37	《都道府県組合部門》岡山県パチンコ・パチスロ業協同組合「警察と連携した『犯罪の起きにくい社会づくりに関する協定』対策」事業	
38	広島県遊技業協同組合「障がい者福祉施設利用者の方々へ『働く場と機会』を提供」事業	
39	《支部組合部門》桑名支部（三重県遊技業協同組合）「三重県桑名市との依存問題対策に関する連携協定に基づく継続」事業	
40	《組合員ホール部門》神奈川県 株式会社東横商事「重度の医療患者向け宿泊施設及び利用者への支援事業18年」事業	
41	富山県 澤田グループ 株式会社ノースランド「スマイルプレゼント」事業	
42	宮崎県 株式会社西の丸「小学校新入学児童ヘランドセルカバー贈呈」事業	
43	第21回社会貢献大賞 受賞一覧／2025年永年・特別永年活動顕彰一覧	
44	2025年社会貢献・社会還元の実施状況調査結果	
52	社会貢献活動全国データ編	
75	協賛パートナー一覧	
76	一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構 組織図	
78	定款	
80	編集後記	

平和で住みよい社会づくりに貢献していくために

20世紀の後半から、企業やNPO、NGOなどを含む各種団体、個人の社会貢献活動が注目されるようになってきました。CSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）、フィランソロピーといった言葉が人口に膾炙し、その価値が社会に広く認知されつつあります。その背景にあるのは、社会全体の持続的発展なくしては、企業も個人も存在し続けることはできないという認識です。市民一人ひとりが積極的、主体的に社会に参加し、企業や団体がその活動を促進、支援していくことは、文化的で活力ある社会の形成と向上に欠かせない要素です。

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構は、社会貢献活動が社会を支える極めて重要な活動であるという観点の下、遊技業界ならびに民間や公的機関などと連携、協力しながら、パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む団体や研究機関に対する支援を中心に青少年の健全育成、平和で住みよい社会づくりなどの社会貢献活動の推進、またそれらの広報を目的に発足しました。

全日本遊技事業協同組合連合会の傘下にある都道府県遊技業協同組合、支部組合そして組合員ホールは、これまでも全国の各地域で、様々な社会貢献・社会還元活動に取り組んできました。その活動は、社会福祉や青少年育成関連団体への援助や寄付をはじめ、授産施設の商品購入、町の清掃活動、子どもを犯罪や事故から守る活動、地元行事への参加や支援、老人ホームの慰問など多岐にわたっています。当機構は、これらの活動の継続発展を支援するとともに、それらを集約し、未来に向かって一つの力として積み上げていくためのネットワークの結節点として機能しています。

日本の社会において、今後、ますます社会貢献の重要性が増していくことは間違いないことと思います。当機構では、パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決、子どもの健全育成支援や災害復興支援活動への助成事業、社会貢献活動に真摯に取り組んでいる会員の顕彰事業、全国で業界が実施している社会貢献活動の内容や規模を紹介する報告書の作成などを通じ、21世紀の社会や時代の要請に応えるような、広い視野と深い洞察に基づいた夢と実のある社会貢献を展開してまいりたいと考えております。

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構の
主な事業内容

助成事業

助成事業は、当機構の根幹事業です。毎年、パチンコ・パチスロ依存問題の解決や予防に取り組む事業、子どもの健やかな成長を願う事業、災害の被災者を元気づける事業などに対し、助成を行っています。

依存問題への
取り組み

パチンコ・パチスロ業界を挙げて依存問題に取り組み、助成事業やフォーラムの実施、報告書の作成などを通して社会に貢献します。

顕彰事業

遊技業界が全国各地で実施している各種の社会貢献活動の中から、社会的有用性、継続性、波及効果などを基準に、特に優れた活動を選定して顕彰しています。年間で最も優れた活動には、「社会貢献大賞」が授与されます。

活動報告書の
作成・配布

助成事業と顕彰事業の詳細な内容報告のほか、全国で業界が実施している社会貢献活動の内容、拠出金額などをデータ化した報告書を毎年作成し、関係機関や全国の図書館などに配布し、業界による社会貢献活動の理解向上に努めています。

第20回社会貢献大賞 表彰式

2025年7月25日、第一ホテル東京で「第20回社会貢献大賞」表彰式を開催しました。
「社会貢献大賞」に選ばれた佐賀県パチンコ・パチスロ店協同組合のほか、都道府県部門の
最優秀賞及び優秀賞が宮廻正明代表理事から授与されました。

第20回社会貢献大賞



埼玉県遊技業協同組合・埼玉県遊技業防犯協力会
「埼玉県・埼玉県警と連携した地域防犯活動及び店舗等安全対策の推進」事業

都道府県部門 最優秀賞



香川県遊技業協同組合
「『香川パチンコ・パチスロの日』を制定、社会貢献の一環として『地域清掃活動』を実施」事業



都道府県組合 優秀賞 青森県遊技業協同組合
「災害救助犬支援活動」事業



都道府県組合 優秀賞 山形県遊技業協同組合
「山形県警察『警察書道』コンクール共催」事業



都道府県組合 優秀賞 群馬県遊技業協同組合
「能登半島地震義援金」事業



挨拶をする一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構、代表理事の宮廻正明さん

届いています。支援のチカラ。

皆さまのご支援が、社会の
助成団体から届いた

課題解決に役立っています。
感謝と成果の声をご紹介します。

パチンコ・パチスロ依存問題

助成を糧に、
引き続き教育研究活動に邁進



ギャンブル依存に対する
支援は、助産師にも
できることを
改めて学びました。

学校法人
東京純心女子学園
東京純心大学



パチンコ・パチスロ依存問題

自立準備ホームの認知度と
スキルを上げたい



地域社会の理解が
得られるよう、
活動の意義を訴えて
行きたい。

一般社団法人
日本自立準備ホーム
協議会



パチンコ・パチスロ依存問題

回復と組織を支える
重要な後押しとなりました



依存問題を抱えた
女性たちが回復を支え合
う場を実現することが
できました。

特定非営利活動法人
高知ダルク



パチンコ・パチスロ依存問題

助成のおかげで安定的に
活動できることに感謝



依存問題を持つ方、
障がいを持つ方々に
楽しいひとときを
提供できました。

一般社団法人
むら ワークスホーム



子どもの健全育成

子どもたちの笑い声は、
地域の財産だと感じました



不登校問題、過疎地の
子育て環境問題に
取り組むことが
できました。

特定非営利活動法人
北見 NPO
サポートセンター



子どもの健全育成

無料の希望塾で
英語教育に取り組みました



無料塾の卒業生は
6年間で 50名を
超えました。

特定非営利活動法人
陽向ぼっこ



子どもの健全育成

来場者から寄せられた笑顔や
喜びの声が活動の励みに



参加してくださった
皆様から喜びの声や
笑顔をたくさん
いただきました。

一般社団法人
みらいの光



子どもの健全育成

奨学金を
渡すことができました



当奨学金にとって、
POSC からの助成は
非常に貴重なものにな
っています。

一般社団法人
パチンコ・パチスロ
奨学金



子どもの健全育成

事業に関わるすべての方に
幸せを届けることができました



子どもの育成事業に対
して助成していること
をイベントの来場者な
どに周知できました。

金沢ゆめ街道
実行委員会



子どもの健全育成

子どもたちの間で
口コミも広がりました



より多くの子どもたちに
楽しい思い出を
つくることが
できました。

松山子ども夢事業



子どもの健全育成

多くの子どもたちに
笑顔届けられました



困窮家庭に
寄り添った活動が
できたのもご支援の
おかげです。

特定非営利活動法人
制服バンク福岡



子どもの健全育成

児童養護施設などの卒園生が
金銭感覚やマナーを学べた



社会へ踏み出す
子どもたちの
自信や励みにつながる
機会になりました。

特定非営利活動法人
HASU



2025年度 助成団体 認定証授与式

2025年5月14日、全日遊連にて「2025年度 助成団体 認定証授与式」を開催しました。
東京都や神奈川県の助成団体に対し、認定書を授与した後、
参加した助成団体による交流会を実施しました。



パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「妊産婦のギャンブル依存症の改善」事業

ギャンブル依存の妊産婦を支援するために
実態調査と助産師のスキル取得講座を実施

助産師の高齢化で、年々助産院が減少している。2025年に「別科助産専攻」を開設した「東京純心大学」では、
こうした現状に危機感を持ち、地域貢献できる助産院を増やすべくリカレント（学び直し）講座の取り組みを進めて
いる。その一環として、ギャンブル依存の妊産婦を支援するための基盤づくりに取り組んだ。

インターネットによるアンケート実施と
リカレント講座での支援スキルの習得

妊娠中に足繁くパチンコ店に通いつめる女性がいる。
あるいは乳幼児を自家用車に置き去りにしたまま、パチン
コ店に入店し、遊興している母親がいるという事実がある。
もしかすると、こうした妊産婦の何人かはギャンブル依存
の可能性があるのではないか。もしそうだとすると、妊産婦
と接する機会のある助産師が、そのような女性の回復や
立ち直りを支援することができるのではないかと。そうした思
いのもと、東京純心大学の別科助産専攻ではギャンブル
依存の妊産婦に関する実態調査と、助産師として支援す
るためのスキルを学ぶリカレント講座を実施した。

まず、妊産婦及び妊娠経験者500名を対象に、インター

ネットアンケートによる実態調査を行った。また、「NPO 法
人 全国ギャンブル依存症家族の会山梨」が主催するセミ
ナーに参加したほか、「認定NPO 法人 ワンダーポート」
を訪問し、ギャンブル依存の妊産婦に対し、助産師として
どう支援すべきか、情報収集や意見交換を行った。さらに
リカレント講座では、合計10回の講座のうち、2回をギャン
ブル依存について学ぶための時間とした（「ギャンブル依
存症問題と助産師ができること」）。POSCの助成を受ける
ことで、アンケートを実施し、その結果をリカレント講座で活
用できたことはもちろん、ギャンブル依存当事者やその家族、
支援団体関係者と意見交換することができたことで、今
後の研究および支援活動の基盤づくりにつながった。



「NPO 法人 全国ギャンブル依存症家族の会山梨」が主催するセミナーに参加



リカレント講座の開講を告知するチラシ

助成団体:学校法人 東京純心女子学園 東京純心大学 <https://www.t-junshin.ac.jp/univ/>



POSCからの助成を糧に、引き続き教育研究活動に邁進していきます

ギャンブル依存に対する支援は、助産師にもできることを改めて学びました。支援団体やリカレント講座
受講者とのつながりを持つことができ、次年度以降もリカレント講座を開催すること、ギャンブル依存の妊
産婦に対する支援策も継続することを決定しています。

学校法人 東京純心女子学園 東京純心大学
別科助産専攻別科長 間中 伴子さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「パチンコ・パチスロ依存は『病気』ではなく『健康問題』であることを周知する」事業 依存問題を健康問題として捉える考え方を伝え、 健康増進のためのランニングイベントを開催

我が国初のギャンブル依存回復（入所）施設として、2000年に設立された「ワンデーポート」では、関係団体などとも交流を続けながら、依存の問題を持った人や家族への相談支援、セミナーによる普及啓発などを通じて、個々の利用者の課題に寄り添い、常に新しい視点での支援活動を行っている。

ランニングイベント「多摩川ゆるラン」とギャンブル依存を考えるセミナーを開催

「ギャンブル等依存」の対策として、我が国では国の定める基本計画の下、行政や医療機関が主導する形で医療モデルに偏った相談支援事業が行われている。しかし、国際疾病分類である「ICD-11」では、ギャンブルへのめり込みをギャンブリング障害と危険なギャンブリングに分類し、後者については健康問題としている。健康問題であれば、自己解決を主とした啓発やサポートが必要なはずだが、我が国の対策では本来は効果的である運動による生活改善が軽視されている。

ワンデーポートでは依存問題を健康問題であると捉え、その対策として、東京都狛江市および調布市の多摩川遊

歩道をランニングするイベント「多摩川ゆるラン」を開催した（2025年6月・9月・10月・11月・12月、2026年1月・2月・3月の第3土曜）。計8回実施され、延べ80名が参加したが、当事者だけではなく、医療福祉関係者の参加もあり、次年度に向けた地域の希望などの有意義な話を聞くことができた。また、11月16日にはさいたま市で、「ギャンブル依存を多角的に考える」をテーマにしたセミナーを開催（参加者50名）し、依存問題の背景には若者に共通する課題があることを紹介した。これらのイベントにより、ギャンブルへのめり込みを予防し、自己解決を促すなどして依存問題を解決するには、身体的健康が大事だということを伝えることができたと考えている。これらの事業の成果や課題は、会報やSNSなどを通じ発信した。



ランニングイベント「多摩川ゆるラン」



「ギャンブル依存を多角的に考える」をテーマにしたセミナーを開催

助成団体:認定非営利活動法人 ワンデーポート

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>



依存問題対策として健康増進や生活改善が有効であることを伝えたい

依存問題の解決に関して、国の画一的な対策とは一線を画した対策を進めるため、私たちは公的支援を受けずに活動しています。先駆的な取り組みであるがゆえ、理解されにくいところもありますが、今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

認定非営利活動法人 ワンデーポート
施設長 中村 努さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「罪を犯した人たちの自立支援・再犯防止」事業

犯罪や依存問題でつまづいた人の自立を支援する 協議会が全国7ブロックで勉強会・研修会を開催

非行や犯罪を引き起こしたことにより家族や地域社会から排除され、住まいや仕事を失った人たちに寄り添い、宿所を提供し、就労支援などのサポートをしながら自立更生を促す活動を行っている「自立準備ホーム」。その全国組織である「日本自立準備ホーム協議会」が、勉強会・研修会を開催した。

犯罪や依存問題からの立ち直りを目指す 人々を支えるための知識やスキルを学ぶ

法務省の出先機関である都道府県の保護観察所に自立準備ホーム（以下、ホーム）として登録されている事業者は、全国に560団体ある（2024年4月現在）。ホームでは非行や犯罪を犯したことで住まいを得られない人たちに宿所を提供しながら、就労のサポートなどを行っているが、ホームに入所する人たちのなかには、精神障がい者や薬物、ギャンブル、アルコールなどの依存症者も多くいる。このような困難を抱えた人たちに適切な支援が求められているが、その対応策を学ぶための勉強会や研修会などを個々のホームで行うことは難しい状況にある。そのためホームの全国組織である日本自立準備ホーム協議会では、POSCの助

成を活用し、全国を7ブロックに分けて勉強会・研修会を実施した。

7回の開催で、累計167団体、270名の参加者があった。各ブロックの勉強会・研修会では、ホーム職員のニーズに沿った内容になるよう努めた。ホーム従事者の参考となる事例報告を始め、基調報告として大学教員、精神科医などから「障害・高齢などによる特別なニーズのある犯罪行為者への対応」「依存症の利用者と医療の連携」などの講演の後、参加者が小グループに分かれて「ホームを運営するうえでの課題や解決方法」などについて、意見交換を行った。参加者からは「率直に意見交換できて良かった」「依存症者の対応の参考になった」「毎年、開催して欲しい」といった声が多く寄せられた。



全国を7ブロックに分けて勉強会・研修会を実施



専門家の講演を行い依存症者の対応を学んだ

助成団体:一般社団法人 日本自立準備ホーム協議会

<https://nichijyunkyo.com/>



自立準備ホームの認知度とスキルを上げるための努力をしています

POSCからの助成金を受けて3年目になります。私どもの協議会の事業にご理解を賜り、深く感謝申し上げます。引き続きご支援をいただければ幸いです。地域社会での理解を得られるよう、あらゆる機会をとらえて活動の意義を訴えていきたいと考えております。

一般社団法人 日本自立準備ホーム協議会
常務理事（事務局長） 長谷川 正光さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「養成研修及び自殺防止啓発活動」事業

ボランティア電話相談員の養成やスキルの向上、 傾聴講座を通しての自殺防止活動などに取り組む

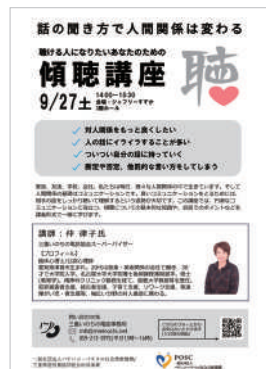
「いのちの電話」は、電話を通して自殺などの危機を訴える人たちの良き相談相手になっていこうとする市民活動である。2001年に全国で50番目の「いのちの電話協会」として発足した「三重いのちの電話」では、一人でも自殺者が少なくなることを願って、日々、相談員が心を込めて傾聴活動を行っている。

ボランティア電話相談員の人員確保と 現相談員のスキルアップを図る研修

いのちの電話は自殺防止を第一の使命として活動をしているが、その要となるボランティア電話相談員数は全国的にも減少傾向である。「三重いのちの電話」では、少しでもボランティア電話相談員を増やし、体制を充実していくための努力を重ねている。その一環として、POSCと三重県遊技業協同組合の助成を受け、ボランティア電話相談員の養成とスキルアップ研修、さらに三重県民への自殺予防啓発に取り組むことにした。

まず、ボランティア電話相談員の人員確保として、第15期生ボランティア電話相談員養成講座を開講した（第2課程13回、実習3ヵ月）。受講者10名中、9名が認定され

た。その養成講座の一つとして、ギャンブル依存問題等をテーマとする講座も実施した。また、ボランティア電話相談員のスキルアップを図るため、グループ研修、個人スーパービジョン、合同研修などを実施した。初めての試みとして愛知・岐阜・三重の3センターによる合同宿泊研修も行った。参加した電話相談員からは、各センターそれぞれの活動の仕方を話し合え、充実した研修だったという声が多く寄せられた。合同研修の事例検討会では、ギャンブル依存問題等についても話し合った。さらに、自殺防止の啓発活動として、三重県民を対象に「話の聞き方で人間関係は変わる」をテーマとする傾聴講座を3回（鈴鹿市、津市、伊勢市）開催し、計237名（会場154名、Zoom83名）の参加者があった。



傾聴講座のイベントを告知するチラシ



ボランティア電話相談員養成講座を開講

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「女性の依存症者の居場所作りと地域連携フォーラムの開催」事業

依存問題への関心と理解を醸成するためのイベントと 女性依存症者のためのリハビリホームの環境を整備

各種の依存症者、その家族、関係者などに対して回復や社会復帰を支援する事業を行うとともに、一般への啓発事業なども行う依存症リハビリ施設の「神戸ダルクヴィレッジ」では、依存問題へ関心を持ってもらうためのイベント開催や、依存問題を抱える女性を支援するためのリハビリホームの整備に取り組んだ。

依存症者への偏見を低減させたり、 回復に取り組む居場所作りを推進する

「神戸ダルクヴィレッジ」では、依存症者が社会復帰していくための障壁を取り除いていくことを活動の根底に据えて、様々な事業に取り組んでいる。その一つがPOSCの助成を受けて2024年度から開催している「リカバリーデイ フェスティバル in 神戸」であり、その2回目が2026年3月21日に神戸市の東遊園地で開催された。2024年度は土砂降りの大雨に見舞われて参加者も少なかったが、今回は天気にも恵まれ、関係者20名のほか、約150名の参加者があった。依存症は誰にでも起こり得る問題であるとともに、依存症になるプロセスを知ることですべての予防と回復の大切さを伝えることを目的に取り組んだが、依存症に対する

一般の理解という点では、まだまだ偏見が大きな障壁として存在することを実感した。その一方、子どもを連れたボランティアの方々や回復者がサポートに来てくれ、公園で遊ぶ地域の子どもの対応をしている姿に、「本当に回復してくれてよかった」と、感謝の気持ちを感じた。今回はプライベートで参加した神戸市議や行政の方々が多かったので、次回以降の活動にその関係を活かしていこうと考えている。

また、女性の依存症者が安心して心地よく過ごすための居場所を作る事業として、リハビリホームのリフォームを実施した。実際の作業では、作業療法的な意味合いも含め、専門的な知識がある男性依存症者のメンバーを中心に、毎月1〜2回、延べ約40名が力を合わせて取り組んだ。



「リカバリーデイ フェスティバル in 神戸」の開催を告知するチラシ



依存問題について理解してもらうため予防と回復の大切さを伝えた

助成団体:認定特定非営利活動法人 三重いのちの電話協会

<http://www.mieinochi.net>



ボランティア電話相談員の確保と財源の確保に助成が大いに役立ちました

POSCからの助成は、当法人の安定的な運営管理の面から大変助かりました。近年、複雑で価値観の多様化した社会や困難な家庭状況等を反映して、深刻な電話も増えてきており、なかにはギャンブル依存に関する相談もありますので、しっかりと対応していきます。

認定特定非営利活動法人 三重いのちの電話協会
事務局長 古庄 憲之さん

助成団体:一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

<http://www.kobedarc.org/>



社会で依存症者を支える時代が来るように活動を継続していきます

これまで神戸ダルクの活動の発展と取り組みの大きな支えとなっただき、ありがとうございます。依存症で苦しむ人は心に傷を抱えている人がほとんどで、その点をご理解いただき、回復へ導く活動を支援していただいていることに言葉で言い尽くせないほど感謝しております。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ
代表理事 梅田 靖規さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「高知・女性支援交流と学び」事業

依存問題を抱えた地方の女性たちをつなぎ、相互に学び合い、支え合う場を創出する

「高知ダルク」では、薬物依存症者などに対して、断薬支援、住居・食事の提供、日常生活相談などの支援活動を行っている。2017年からは女性に特化した事業を展開しているが、このたび依存問題を抱える地方やへき地の女性たちに焦点を絞り、相互交流や自己啓発の場を設けるための活動に取り組んだ。

施設や地域の枠を超えた交流で回復へのモチベーション向上を図る

新型コロナ禍以降、地方やへき地では人とのつながりが希薄化し、孤立の問題がより深刻化している。特に「高知ダルク」に入所・通所する女性たちは、支援資源の少なさや地理的制約により、閉ざされた環境の中で回復を目指すしなければならず、他地域の当事者や多様な回復のあり方に触れる機会が乏しいという課題があった。こうした状況を踏まえ、「高知ダルク」ではPOSCの助成を活用し、施設や地域の枠を超えて交流の輪を広げ、回復へのモチベーション向上に役立つ様々な活動に取り組むことにした。

2025年6月には、沖縄の「むら ワークスホーム」が主催するイベントに、高知ダルクが運営する就労継続支援

B型作業所「月と太陽と星たち」として出店した。8月には「群馬ダルク」より講師を招き、ワークショップイベントを開催した。さらに2026年2月には、日本各地で女性の依存回復に携わる7名の方を講師として招き、29周年「高知ダルクフォーラム」を開催した。参加した女性たちの表情や言葉には明確な変化が見られ、交流の場で他地域の当事者が自らの回復の経験を語る姿を見て、「自分のままで回復してもいいのだと初めて思えた」「将来のことを考えてみたいと思った」「一人じゃないと思えた」「他施設の仲間たちの回復の姿を見て希望を感じた」と話す参加者がいたことが強く印象に残った。また、若手スタッフが企画・運営に主体的に関わることで、支援者としてのスキルアップや視野の拡大にもつながった。



沖縄の「むら ワークスホーム」が主催するイベントに出店



29周年「高知ダルクフォーラム」を開催

助成団体:特定非営利活動法人 高知ダルク

<https://www.int-kochi.com/>



当事者の回復と組織の将来を同時に支える重要な後押しとなりました

本助成があったからこそ、地方・へき地に暮らす依存問題を抱えた女性たちが地域を超えて出会い、語り合い、互いの回復を支え合う場を実現することができました。今回生まれたつながりを一過性のものにせず、より多くの女性に届く仕組みを作っていく必要性を改めて感じています。

特定非営利活動法人 高知ダルク
理事長 宮本 容子さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「電話相談活動・相談員養成・自死遺族支援」事業

誰かに話を聞いてもらうことで自死者を出さない社会を実現するために電話相談員の養成や研修に力を注ぐ

自殺（自死）者のない社会を実現するためには、孤立や孤独状態に置かれている人がいない社会づくりが必要である。1998年の開局以来、27年間にわたって、24時間年中無休で電話相談活動に取り組んでいる「佐賀いのちの電話」では、活動を支える要となる相談員の養成に向けて日々、努力を傾けている。

相談員の高齢化や減少という課題を解決するために養成講座を継続する

「佐賀いのちの電話」では、自殺（自死）される方が一人でも少なくなることを願いながら、現在、約120名の相談員が電話相談の受話器を取り、悩みや苦しみを傾聴し、寄り添い、ともに社会人として生きることができるよう活動が続いている。しかしながら、活動を担う相談員の高齢化が進み、新しく相談員になる方も年々、減少しているのが現状である。その課題を解決するため、団体では相談員の養成を継続的に取り組んでいる。

2025年度の相談員養成事業では、まず40名の受講生が第1課程としてカウンセリング公開講座を受講（5月～7月、11講座）。そのなかの7名が、第2課程を受講（9月～3月、

26講座）した。2026年4月からは第3課程に進み、新人として実際に受話器を取りながら1年間指導を受け、さらに3年目に入ると相談員としての認定を受けることになっている。それに加え、団体では現役の相談員のスキルアップのための継続研修を実施。月1回の班別研修、年1回の公認心理士や精神科医師からの指導を受けている。さらに、自死遺族の方と直接面談して心の悩みを傾聴する支援事業「わかち合いハートの海」も実施（毎月第4土曜）している。これらの事業にPOSCと佐賀県パチンコ・パチスロ店協同組合からの助成を活用したが、カウンセリング公開講座を受講した人からは、「相談員になるか、ならないは別として、これからの生活にも役立つ講座だった」と感謝の言葉が伝えられた。



減少傾向にある相談員を養成する講座



現役の相談員のスキルアップのための継続研修を実施

助成団体:社会福祉法人 佐賀いのちの電話

<https://saga-lifeline.org>



県や市の行政からも佐賀いのちの電話の存在を評価されています

財政的に困窮しているなかで、POSCと佐賀県パチンコ・パチスロ店協同組合様から助成を受けることで、新人相談員の育成、現役相談員の継続研修、自死遺族支援など、2025年度の事業を実施することができました。ひとえに感謝するのみです。まことにありがとうございました。

社会福祉法人 佐賀いのちの電話
理事長 松永 啓介さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「依存問題に関わる方々と共に『回復に必要な居場所を作ろう』」事業

地域交流による社会参加や作業所での就労を通して 依存問題を抱える当事者の回復を支える居場所づくり

依存問題を抱える当事者とその家族への相談支援や回復支援を目的に、回復プログラムの提供、居場所づくり、地域への普及啓発活動などを行っている「ちゅーりっぷ会長崎ダルク」。近年では長崎の海を舞台に当事者の社会参加や就労支援にも取り組み、地域社会の中で回復を支える環境づくりを進めている。

支援スタッフ研修や当事者の社会参加、 就労支援環境の整備などに取り組む

依存問題を抱える当事者の多くは、社会的孤立や就労機会の不足といった課題を抱えている。回復に取り組むためには、安心して通うことができる居場所や社会参加の機会が重要である。そうした観点から、「ちゅーりっぷ会長崎ダルク」ではPOSCの助成を活用し、支援スタッフの専門性向上、地域交流イベントの実施、就労支援環境の整備などを柱とする活動を実施した。

支援スタッフ研修では、2025年6月に沖縄県にあるパチンコ依存問題の相談支援機関「リカバリーサポート・ネットワーク」を訪問し、電話相談支援の実態や相談対応の留意点などについて学んだ。また、就労支援事業所の取り組みを

学ぶため、沖縄県のむら「ワーカーズホーム」が開催した「B型グルメフェス」を視察し、就労継続支援B型事業所の活動や地域イベントを通じた社会参加の実践を学んだ。併せて就労継続支援B型事業所の開設に伴い、事業拠点となる物件の改装工事を行うとともに、併設するグループホームの家具などの物品購入を行い、当事者が生活と就労を両立させながら回復を目指す環境整備を進めた。さらに、地域交流事業として、11月9日に長崎県小瀬戸港で「こども海釣りフェスティバル」を開催し、児童福祉事業所の子どもたちを招き、海釣り体験と食事会を実施した。39名の参加者があったが、その企画や運営、調理などを依存症の当事者が主体的に担うことで、社会参加や回復への意欲につながる貴重な機会となった。



リカバリーサポート・ネットワークを訪問したスタッフ



児童福祉事業所の子どもたちを招き実施した「こども海釣りフェスティバル」

助成団体:特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク

<http://nagasaki-darc.com>



就労継続支援B型作業所の開設に伴う工事や整備にも助成を活用

今回の助成により、依存問題を抱える当事者の回復を支える環境づくりを進めることができました。地域交流活動や就労支援拠点の整備を実施できたことに深く感謝申し上げます。今後も地域と連携しながら「回復に必要な居場所づくり」に取り組んでいきたいと考えています。

特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク
代表理事 中川 賀雅さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「依存症者の再発を防ぐためのイベント開催」事業

依存症者、障がい者が地域社会とつながるための 「B型グルメフェス」を開催して盛り上がる

2013年から沖縄県で就労継続支援B型事業所を運営するむら「ワーカーズホーム」。コーヒーの木の栽培、コーヒー豆の販売、カフェなどを行っているが、開設当初からギャンブル、アルコール、薬物などの依存問題を持つ方が多く利用している。団体では2025年6月に2回目となるイベントを実施した。

就労継続支援事業所や依存回復施設が 出店するイベントを開催して交流を図る

パチンコやスロットなどをはじめとする様々な依存問題を抱えた方々、あるいは障がいを持つ方々に、地域社会で必要とされ、役に立っているという感覚を持ってもらいたいという願いから、むら「ワーカーズホーム」ではPOSCと沖縄県パチンコ・スロット協同組合の助成を活用し、前年に引き続き、2回目となる「B型グルメフェス」と題するイベントを2025年6月27日に開催した。

会場となった北中城村の沖縄県営中城公園内のイベント広場には、県内外から就労継続支援B型事業所を中心に、A型事業所、障がい者支援や女性支援を行う団体などから30事業所が出店し、コーヒー、パン・菓子、食事・弁当、

小物・アクセサリなどを販売し、ワークショップを実施した。来場者は約500人以上と予想を大きく上回る人数で、各事業所を利用する方々や近隣の精神科病院を利用する障がい者の方々に多く来場していただき、買うほうも売るほうも安心してやり取りをしている姿が印象的だった。また、依存症の回復施設が運営する事業所も数店舗出店し、そこでは依存症の方が地域のB型事業所の利用者と交流している姿も見られた。参加者からは「このような大規模なイベントを企画していただけるのは本当にありがたい」（支援員）、「お客様と触れ合えて楽しかった」（事業所利用者）といった声が多く寄せられた。さらに12月5日～6日には、むら「ワーカーズホーム」が運営するカフェ店内で6周年イベントを実施した。



2回目の開催となった「B型グルメフェス」



県内外から30事業所が出店し500人以上が来場した

助成団体:一般社団法人 むら ワーカーズホーム

<https://www.muraokinawa.org>



複数年にわたる助成のおかげで安定的に活動できていることに感謝

2025年度の助成に関しては、2024年度に引き続き、私たちの活動ではなく、「私たちが地域社会に貢献するには」という考えで活用させていただきました。おかげで多くの依存問題を持つ方々に楽しいひとときを提供できました。ありがとうございました。

一般社団法人 むら ワーカーズホーム
代表理事 横山 順一さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「過疎地域における住民主導の子育て支援体制整備」事業

北海道の北見市留辺蘂町温根湯温泉地区で、安心して子育てできる環境整備に尽力する

NPO中間支援センターとして、多くの福祉NPO法人の設立認証や運営を支援してきた「北見NPOサポートセンター」。現在は非営利セクターの支援や協働事業などに取り組んでいるが、このたび地域住民が中心となって行う子育てワークショップや子ども食堂、防災フェスなどのイベントを開催した。

過疎地域でも安心して子育てができる環境と持続可能な町づくりを目指す

北海道の北見市留辺蘂(るべしべ)町において、福祉のまちづくり活動などに関与してきた「北見NPOサポートセンター」。そのなかで町内の温根湯温泉地区での保育園閉園、子ども会縮小など、子育て環境の悪化を知り、将来を見据えた子育て支援計画づくりの必要性を強く感じていたものの、厳しい財政状況にある行政の支援が期待しにくい、民間主導での対策に乗り出すことにした。

まず、地区の未来の子育て環境の姿をイメージするために「おんねゆ未来子育てプランづくり研修」と題するワークショップを子育て世代中心で開催し、実績豊富な講師の指導を受けて5回にわたる話し合いを行い、子育て環

境のありたい姿を共有した(延べ55名参加)。また、子どもや地元住民を対象に、キッチンカーで地元産品を活用して提供する子ども食堂を実施(3回、各回30食)。地元の方々からの食材の提供、地元高校からのレシピの提供などがあり、地域として一体感のある事業となった。さらに避難所体験と子ども主導で災害食を提供する「防災フェスタ」(30名参加)、子育て世代がおしゃべりで交流する「ママカフェ」(12名参加)、北見工業大学の留学生と子どもたちが交流する「国際交流クッキング」(31名参加)を開催した。これらの事業にPOSCと北海道遊技事業協同組合の助成が活用され、過疎地域であっても物的、人的資源を活用することで、様々な取り組みが可能であることを多くの方々に感じてもらうことができた。



キッチンカーで地元産品を活用して提供する子ども食堂を開催



子ども主導で災害食を提供した防災フェスタのチラシ

助成団体:特定非営利活動法人 北見NPOサポートセンター

<https://kitami-npo-support-center.com/>



子どもたちの笑い声は、地域の貴重な財産だと改めて感じる事業でした

2年連続で助成をいただき、不登校問題、過疎地の子育て環境問題に取り組むことができました。事業をきっかけに、実施地域では様々なアイデアが出され、活動が芽生え始めています。今後も過疎地域の子どもたちの健全育成の取り組みへのご支援を切にお願いいたします。

特定非営利活動法人 北見NPOサポートセンター
理事長 谷井 貞夫さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「英語無料塾を開始して2年目、成果を挙げたため継続資金」事業

生活困窮家庭の子どもたちが未来に希望を持ちながら生活を築いていくための下地作りとなる英語塾を運営

釧路市に隣接する北海道東部の白糠町で2010年に設立された「陽向ぼっこ」は、高齢者の居場所づくりや生きがいづくり、町の経済活性化、貧困世帯の支援活動などに取り組んでいる。さらに町の将来を担う子どもたちを対象にした無料の学習塾を開設し、現在では英語教育に重点を置いた活動を展開している。

町の将来を担う子どもたちのために無料の希望塾で英語教育に取り組む

「陽向ぼっこ」は、人口約6,800人の白糠町で、高齢者の居場所「憩いの館」、高齢者いきがい福祉カラオケ、おもちゃ図書館、子ども食堂・地域食堂、一人親家庭及び生活困窮家庭への弁当の無料宅配などの事業に取り組んでいる。過疎化が進むなかにあって子どもたちは町の宝であり、町の将来を担っていく大切な存在である。その子どもたちのために教育環境を整え、自由に学べる場所を提供することを目的に、団体では2020年4月に無料の「希望塾」をスタートさせた。当初は国語・算数・社会の3科目だったが、これからの時代は英語力が必要になると確信し、2年前から英語塾に切り替え、週2回の授業を行っている。

募集対象は小学3年生から6年生までの12名で、通ってくるのは生活に余裕がなく、有料の塾に通うことが困難な子どもが多い。

2025年度は4月に開塾し、通常授業のほか、7月に塾生との食事会、10月に遠足行事の親子イモ掘り会、12月にクリスマス会、2026年3月には修了お別れ会を実施した。こうした活動に、POSCと北海道遊技事業協同組合からの助成を活用した。11月に8名が英語検定に合格したが、合格者に対して塾で賞状を手渡したところ、親子で喜ぶ光景が見られた。また、町報にも合格者の写真入り記事が掲載され、塾生の家族からも大変喜ばれた。学校で同級生から英語の分からないところを聞かれ、頼りにされると、子どもたちが嬉しそうに話す姿が印象的だった。



無料で英語を学習できる「希望塾」



「希望塾」では食事会やクリスマス会などイベントも開催

助成団体:特定非営利活動法人 陽向ぼっこ

<https://www.hinatabokko-siranuka.com/>



おかげさまで無料塾(希望塾)の卒業生は6年間で50名を超えました

無料塾を開始してから2026年で7年目に入りました。2025年度に3回目の助成支援をいただき、関係者一同、心より感謝申し上げます。今後もこの活動を継続して行ってまいりたいと願っております。これからも子どもたちのために変わらぬご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人 陽向ぼっこ
代表理事 儀同 一義さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「障がい児、闘病児の為に夏祭り」事業

一般のイベントに参加困難な子どもたちや家族が
気がねなく楽しむことができる夏のイベントを開催

障がい児、闘病児、医療ケア児を育てる家族の支援に取り組んでいる、福島市の「みらいの光」。そうした子どもたちや家族が参加できるイベントが極めて限られるなか、団体では参加自由、すべて無料という夏祭りを開催した。会場に詰めかけた子どもたちや家族の顔には笑いが弾け、歓声があがった。

ステージ、体験、フード、遊戯などの多彩な催しに子どもの笑顔が弾ける

子どもたちを対象にしたイベントは数多いが、障がいを持った子どもや医療的なケアが必要な子ども、あるいはその家族が参加できるイベントは数少ないのが現状である。そこで「みらいの光」では、廃校になった小学校の体育館を借りて、そうした子どもたちや家族が気がねなく参加できる夏祭りを2025年9月14日に開催した。このイベントは2023年から続くもので、昨年度で3回目の実施となった。当初は、資金面での不安から実施を見送る予定でいたが、昨年度同様、POSCと福島県遊技業協同組合連合会から助成を受けることができたため、開催の運びとなった。安心して参加いただけるよう、会場には車いす用スロー

プやオムツ交換所などを用意した。ステージイベントとして、お笑いライブ、フラダンスショー、マジックショー、体験コーナーとして、かき氷やバルーンアート作りなどを行ったほか、フードコーナーには焼きそば、揚げパン、フライドポテト、ポップコーン、唐揚げなどを用意した。また遊戯コーナーでは、輪投げ、射的、水ヨーヨー釣り、ストラックアウトなどを用意し、すべて無料で楽しんでもらった。当日は12時から15時までの開催だったが、子ども75名、大人84名の参加があった。参加した家族からは、「障がいを抱えていて、一般のイベントになかなか参加することができないが、このように気がねなく参加できるイベントを開催してもらえてありがたい」などの声をたくさんいただいた。



ステージイベントとして開催したマジックショー



参加自由、すべて無料という夏祭りに子どもの笑顔が弾けた

助成団体:一般社団法人 みらいの光

<https://miraino-hikari.com>



来場者から寄せられた笑顔や喜びの声が、今後の活動の励みに！

前例がない、枠にはまらないなどの理由から補助金などに縁のない当団体に対して、POSCや福島県遊技業協同組合連合会からの助成を頂戴でき、昨年に引き続き無事、夏祭りを開催することができました。参加して下さった皆様から喜びの声や笑顔をたくさんいただきました。

一般社団法人 みらいの光
代表理事 加治 浩子さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「東京のこども食堂の食糧分配システム構築」事業

地域の小さな子ども食堂をネットワークすることで
災害時や緊急時にも対応できる食支援モデルを目指す

すべての子どもが安らぎ、幸せになることを願い、2004年から東京都杉並区を拠点に活動が続けている「こどもプロジェクト」。災害などの非常時にも子ども食堂が役に立つと考え、子ども食堂をネットワークして食糧配布の仕組みを作る「こどもフードパークTOKYO」の構築に向けた取り組みに着手した。

子どもや家庭とつながる子ども食堂を緊急時の食糧分配の拠点にする試み

社会不安や物価高騰などで困窮する子育て家庭が増えてきている。特に成長期に栄養を必要とする子どもの食を、家庭だけではなく地域で支えたいという市民活動が子ども食堂である。杉並区や武蔵野市で子ども食堂を運営する「こどもプロジェクト」では、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大で対面式食堂ができなくなり、一時休止したり、弁当配布に切替えたりしていたが、学校休校で使用しなくなった食料や東京オリンピックの延期で販売できなくなったロゴ入りのお菓子など、行き場を失った食品がたくさん届き、弁当と一緒に配布したところ、大変喜ばれた。このような食糧配布を安定的に継続するにはフードバンクや分

配の仕組みが必要であり、しかもそれが災害などの緊急時にも役立つと考え、それぞれの地域でのネットワークづくりと食糧保管場所の確保を目指す取り組みに着手することにした。その活動に、POSCの助成を活用した。

子ども食堂に食糧を分配するための拠点となる倉庫の整備を行い、「こどもフードパークTOKYO」のホームページを開設。さらに子ども食堂への食糧配布のネットワークを広げるため、中型拠点のある2ヵ所で子ども食堂とパントリーを同時開催した(杉並区・リベルタこども食堂／毎月第4水曜、武蔵野市・リベルタこども食堂セカンド／毎月第3金曜)。また、農水省のサイトより各省庁備蓄食品の入れ替え時の食糧寄付を申し込み、子ども食堂へ分配した(計8回)。多くのひとり親家庭、他団体から感謝された。



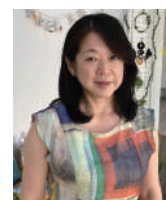
子ども食堂の準備風景



子ども食堂で開催しているパントリー

助成団体:特定非営利活動法人 こどもプロジェクト

<https://child.or.jp>



助成により事業の基盤づくりとなる取り組みに着手することができました

動画の作成やXへの投稿など、団体として行う機会がなかったことをサポートしていただきながら実施できたので、とても感謝しています。今回の助成で事業についてのホームページの作成ができ、新たな気持ちでスタートするきっかけになりました。今後も、ご支援をお願いいたします。

特定非営利活動法人 こどもプロジェクト
理事長 福田 恵美さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「奨学金給付」事業

経済的な理由で進学を断念せざるを得ない若者や返済に苦しむ若者を減らすために返済不要の奨学金

成績優秀で学ぶ意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で修学が困難な若者に対し、返済不要の奨学金給付を行い、我が国の人材育成の推進や福祉の増進に資することを目的とする「パチンコ・パチスロ奨学金」。給付生が社会で活躍することで、遊技業界の社会的地位の向上にもつながると期待されている。

パチンコ・パチスロ業界が設立した返済不要の独自の給付型奨学金制度

1970年代から続く学費の値上げや90年代後半以降の非正規雇用者の激増、さらには新型コロナ禍の影響などにより、昨今、貧困などの経済的な理由で進学や学業の継続が困難な学生が増えている。現在、日本の大学に通う学生の半数以上は奨学金を利用しており、その約3分の1は日本学生支援機構などの公的な奨学金の利用者とされているが、こうした奨学金の多くは「貸与型」と呼ばれるもので、将来的に返済しなければならない。その返済に苦しむ延納者や滞納者は年々増え続けるなか、最近の諸物価高騰もあり、経済的な苦境にある学生はさらに増えていると言われている。



パチンコ・パチスロ奨学金の給付生を募集するポスター



2025年度パチンコ・パチスロ奨学金の給付式

パチンコ・パチスロ業界では、早くからこうした奨学金の問題に着目していたが、2016年に社会福祉法人「さばうと21」の協力を得て「パチンコ・パチスロ奨学金（pp奨学金）」制度を設立し、返済を求めない給付型奨学金事業を開始した。その財源はPOSCからの助成、業界関係者の会費・寄付、遊技客からの寄付などだが、ホール数の減少などにより、それが減少の一途をたどっているのが実状である。そうした厳しい状況下でも、経済的な理由で修学が困難な学業優秀者に対し、月額3万～5万円の奨学金を年6回、継続して給付している。その際、学生にハガキで近況を報告してもらっているが、それをホームページなどで読んだ関係者からは、経済的に苦しい学生を支援することの意義を感じるという声が多く寄せられている。

助成団体:一般社団法人 パチンコ・パチスロ奨学金

<https://www.ppsgk.jp/>



2025年度も給付生に対し、前年度並みの奨学金を渡すことができました

寄付金や会費収入が年々、減少傾向にある当奨学金にとって、POSCからの助成は非常に貴重なものになっています。一度、給付対象となった方への継続支援は責務だと考えております。今後も変わらずのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 パチンコ・パチスロ奨学金
理事長 吹浦 忠正さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「バイクスクール」事業

小学生が自転車を安全に利用するスキルや知識を習得することで事故防止や交通ルールの意識を高める

栃木県宇都宮市を拠点とし、地域のサイクルスポーツの普及と振興を目的に活動する「宇都宮サイクルスポーツ推進委員会」。自転車競技の魅力を広く発信するためのイベントの企画や運営などに取り組んでいるが、このたび地域の小学生を対象に、自転車を安全に利用するための教室を実施した。

交通ルールや安全な操作技術を学ぶ自転車安全スキルアップ講習会を開催

2026年4月1日に施行された道路交通法改正により、自転車の安全走行に関する話題に注目が集まっている。子どものうちから正しい交通ルールや自転車の安全な操作スキルを身に付けることは、自らの身を守るだけでなく、加害者になるリスクを減らし、交通事故の減少にもつながる。地域のサイクルスポーツの普及や振興に取り組む「宇都宮サイクルスポーツ推進委員会」では、POSCと栃木県遊技業協同組合の助成を活用し、小学生が自転車を安全に利用するスキルや知識を習得することで事故防止や交通ルールの遵守の意識を高めることを目的とする自転車安全スキルアップ講習会を開催した。



自転車安全スキルアップ講習会を開催



参加者の技量に合わせたマンツーマン指導が好評を得た

日本マウンテンバイク協会の専門講師を招き、2025年12月6日～7日の2日間にわたって開催した講習会には、小学生を中心にのべ50名が参加した。交通ルールや自転車の安全走行に関する基礎知識を学んだほか、正しいブレーキングや狭い道でのスムーズなハンドルのテクニック、バランスの取り方など、日常生活で役立つ実践的な操作技術などについても学んだ。参加者一人ひとりの技量に合わせた丁寧なマンツーマン指導を重視した結果、参加した子どもたちからは、「カーブが曲がりやすくなった」「自転車に乗るのがもっと楽しくなった」などの声が寄せられた。また、保護者からは「丁寧な指導で安心した」「広報を見て初めて参加したが、来年もぜひ開催してほしい」といった継続を望む声が多数寄せられた。

助成団体:宇都宮サイクルスポーツ推進委員会

<https://utsunomiya-cyclocross.com/>



自転車の安全技術は子どもたちの命を守るための「一生の財産」

今回の助成により、これまで課題であった広報活動を強化することができ、理想とする「専門家によるマンツーマン指導」の場を提供することができました。子どもたちの不安が自信に変わり、笑顔で会場を後にする姿を目の当たりにし、この事業の社会的意義を再確認しました。

宇都宮サイクルスポーツ推進委員会
委員長 横堀 章男さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「困難な問題を抱える女性と子どものための
一時保護施設の運営」事業

社会的・経済的に困難を抱える女性と同伴児童を支援し、
次のステップに向けた準備を行える場を提供する

社会的・経済的困難を抱える女性は可視化されにくく、公的支援から取り残されやすい。DVや経済的搾取に苦しむ若年女性が相談先を持てず、ネットカフェなどを転々とするうちに被害に遭うケースも少なくない。「アマヤドリ」は困難女性支援法を踏まえ、従来の施設の枠を超えた支援に取り組んでいる。

4世帯受け入れ可能な短期的住居で
様々な困難を抱える女性や児童を支援

新型コロナが流行し始めたころ、元養護教諭である「アマヤドリ」代表の元に卒業生をはじめとする若年女性からの深刻な相談が多く寄せられた。DVや経済的困窮、予期せぬ妊娠、精神疾患など、相談内容は多岐にわたっていた。日本では18歳までは児童福祉法に基づく支援の仕組みがあるが、それを過ぎると支援対象外となるケースが多い。彼女らをサポートしていくなかで、18歳以上の女性への支援が空白だったり、希薄だったりする現状を痛感したことで、2020年に「アマヤドリ」を設立し、彼女たちを支援する事業に着手した。

活動を続けるなかで、支援の対象を若年層だけでなく、

困難を抱える女性とその同伴児童に拡げ、2023年よりPOSCなどからの助成を活用し、短期的住居の運営を開始した。4世帯の受け入れが可能になっていて、2025年度の利用者数は17名、同伴児童数は11名だった。助成により、ボランティアスタッフへの謝金・交通費や非常通報装置などの防犯対策、ポータブル電源の整備などの防災対策など、困難を抱える女性が安心・安全に過ごせる環境を整えた。今後の生活について多くの不安を抱えて入所した利用者だが、退所時には「安心して過ごすことができた」などの声をいただいたほか、入所当初は戸惑いがちだった同伴児童も、遊びや畑での収穫作業などを通して、次第にのびのびと過ごすことができるようになった。



防犯対策を充実させ安心して過ごせるようになった住居



安心・安全に過ごせるようにスタッフが手厚くサポート

助成団体:公益社団法人 アマヤドリ

<https://www.amayadori-official.net/>



3年続けて助成していただき、本年も活動を充実させることができました

困難を抱える女性や同伴児童への支援は、社会全体で支えていくことが大切だと改めて実感しています。POSCのご支援により、利用者の方に安心して施設で過ごしていただくことができたうえ、行政・民間・ボランティアが連携した充実した支援体制を築くことができました。

公益社団法人 アマヤドリ
代表理事 菊池 操さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「金沢ゆめ街道2025」事業

金沢市中心部で多彩なパフォーマンスが繰り上げられる
夏の恒例イベントが子どもたちの部活動の発表の場に！

石川県の県都・金沢市の目抜き通りの1.5kmが歩行者天国や祭り空間と化す、夏の風物詩「金沢ゆめ街道」。YOSAKOIソーランのステージ演舞やマーチングバンドの演奏など多彩なパフォーマンスが繰り上げられるが、子どもたちが日ごろの部活動の成果を発表する場としても大いに期待されている。

部活動の成果を発表する場としても
期待される夏の風物詩イベント

多彩な事業により都市中心部の活性化や賑わいの創出をめざす県民総参加のイベントとして始まった「金沢ゆめ街道」。現在の名称に変更されてから19回目となる2025年度の新金沢ゆめ街道は、8月9日～10日に開催された。市の目抜き通りである国道157号線の武蔵交差点～片町交差点間の約1.5kmが歩行者天国となり、YOSAKOIソーランのステージ演舞やマーチングバンド演奏をはじめ、チアダンス、バントワリング、新体操、太鼓などの多彩な路上パフォーマンスが繰り上げられたほか、大地震に見舞われた能登半島の復興を祈念するオープニングパレードや「おわら風の盆」の踊り、物産展なども実施された。なお、

パフォーマンスには総勢700人の参加者があった。

このイベントが果たす役割の一つとして期待されているのが、児童・生徒の部活動の発表の場や機会となることである。指導者の時間的制約などから、学校に通う子どもたちの部活動が縮小される傾向にあり、その成果を発表する場や機会も少なくなってきたのが現状である。そうしたなかで国内外から多くの観光客が訪れるイベントに参加してもらうことは、日本の教育文化の一環とも言える部活動を維持し、子どもたちの人間性を高めるうえでも有意義だと考えられる。今回参加した京都橘高校吹奏楽部の演奏・演舞の動画がSNSで発信され、大変な注目を浴びたうえ、地元の小学校、中学校、高校の吹奏楽部やYOSAKOIソーランなどの動画も話題となった。



多彩な路上パフォーマンスが繰り上げられた「金沢ゆめ街道」



児童・生徒の部活動の発表の場や機会にもなった

助成団体:金沢ゆめ街道実行委員会

https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/event/detail_50394.html



助成により、事業に関わるすべての方に幸せを届けることができました

子どもの育成事業には収益が期待できないことなどから、一般企業からの協賛には限界があります。POSCや石川県遊技業協同組合が子どもの育成事業に対して助成していることをイベントの来場者などに周知でき「いいことしていますよね」などの賛辞が寄せられました。

金沢ゆめ街道実行委員会
委員長 中川 一成さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「ドリームキッチン」事業

子どもの貧困が格差につながらないように配慮しながら 誰でも参加できる食事の提供事業を実施する

子どもの貧困率の高さが問題となるなか、子どもたちに楽しい思い出を作り、自分たちの街を大切に思う気持ちを持ってもらいたいと、愛知県春日井市の松山校区の子どもたちを対象に様々なイベントや地域貢献活動を行う「松山子ども夢事業」が、子どもなら誰でも参加できるフードイベントを開催した。

地域のすべての子どもたちを対象にした 孤食対策としてのフードイベントを開催

新型コロナ禍の2020年、地域の子どもたちが通う小学校の校長から、「学校給食しか食べられていない子どもがいて、長期の休みに入ると非常に心配」という声が出たことから、保護者の集まりである「松山子ども夢事業」の有志によってスタートしたのが、「ドリームキッチン」である。小学生の孤食や経済的に困窮する家庭の子どもの食生活が問題となっており、夏休み、冬休み、春休みなどの給食のない期間に地域の公共施設などを使って、子どもたちに食事を提供しようということで始められた事業だが、一般的に知られる「子ども食堂」という名称を用いなかったのは、そう名乗ることで、そこに集まる子どもたちは貧困

家庭の子どもとして見なされ、いじめなどの原因になりかねないという懸念があったからである。そのため、地域の子どもであれば誰でも集まりやすいドリームキッチンという名称で活動することにした。

2025年度は全25回実施し、毎回100～200名が参加して、延べ2,692名の児童が無料で食事の提供を受けた。物価高による食材費高騰のため、以前提供できていたレベルの食事を提供できにくくなりつつあったが、POSCの助成を活用することで、食材購入の課題を克服することができた。活動を続けるなかで子どもたちの間で口コミも広がり、誰でも参加しやすい雰囲気を作ることができ、冬には特別メニューを提供するなど、評判も上々であった。学校や地域からも高い評価を得ている。



全25回実施され、毎回100～200名が参加した「ドリームキッチン」



POSCの助成を受け食材購入の課題を克服できた

助成団体:松山子ども夢事業

<https://matsuyamacdb.wixsite.com/main>



活動当初より地域の子どもたちは区別することなく受け入れてきました

このたびは当団体をご支援いただき、ありがとうございました。2025年度の助成金のおかげで、より多くの参加者に楽しい思い出をつくることができ、地域になくてはならない団体へと成長することができました。安定した活動をしていくためにも、今後ともよろしく願いいたします。

松山子ども夢事業
代表 水谷 俊也さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「難聴障がい児の居場所デフアカデミー『共存プロジェクト』」事業

ろう難聴児の居場所「デフアカデミー」に 聞こえる人を招いて「共存の場」を創出する

大阪市中央区でろう難聴児の放課後等デイサービス「デフアカデミー」などを運営し、考える力や人と関わる力を育むプロジェクト型学習を提供している「Silent Voice」。ろう難聴児への民間支援拠点としては稀有な存在であり、これまでに200名以上の児童・生徒が登録し、様々な活動を行っている。

ろう難聴児と聴者が隔てなく交わる 月に一度の共存イベントを実施する

ろう難聴児はコミュニケーションの壁から家族外の聞こえる人と関わる機会が少なく、同じろう難聴児同士で集まる傾向がある。その結果、聴者と関わっていく自信が育まれず、社会に出て働く際に、自身の障がい特性を説明したり、関係性を構築したりすることに慣れず、孤立して早期退職してしまうケースも少なくない。こうした背景を踏まえ、「Silent Voice」ではPOSCと大阪府遊技業協同組合の助成を活用し、子どもたちから聞こえる人（きょうだい、保護者、地域住民など）と関わり、仲間だと思える経験を積むことを目的とする事業を実施した。

デフアカデミーに月に一度「共存イベント」の場を設け、

ろう者と聴者のゲストを招き、スポーツ、夏祭り、大阪万博見学、職場体験などのイベントを計10回行った。特に9月には「にんげんキャンプ2025」と題した1泊2日のキャンプを開催したが、そこにはデフアカデミーや全国のオンライン支援の児童・生徒、そのきょうだいなど計44名（小中学生26名、スタッフ18名）が参加し、聞こえる子どもも聞こえない子どもも関係なく、共に過ごすイベントを初めて試みた。参加した子どもからは、「気がつくとも声を使わずに話していた」「無理やりでも行かせてくれてありがとう」といった感想が保護者に伝えられたほか、キャンプファイヤーのわずかな灯りの中でも顔と手が見えれば手話で通じ合えることに子どもたちが興奮し、ひたすら手話でおしゃべりを楽しむ姿が感動的だった。



ろう者と聴者が一緒に楽しむイベントを開催



手話で通じ合いながら楽しんだキャンプ

助成団体:認定特定非営利活動法人 Silent Voice

<https://silentvoice.org>



今回の助成のおかげで活動規模と質を大幅に向上させることができました

キャンプを含め、年間を通じた共存プロジェクトに対し、多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。子どもたちが安心できる環境の中で挑戦し、大きな自信を得ることができました。ろう難聴児が自分らしく生かされる社会を目指して活動を続けてまいります。

認定特定非営利活動法人 Silent Voice
代表理事 尾中 友哉さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「過疎地域の困難を抱えるこどもへの食事支援」事業

子どもや高齢者だけでなく地域で困難を抱えている 様々な人に食事の提供や交流の機会を創出する

島根県邑智郡美郷町で2004年に設立された「敬愛福祉会」では、「デイサービスやすらぎの里別府」の運営のほか、居宅介護支援事業所、学童保育、配食事業などを行っている。少子高齢化により人口減少が続く地域で、住民を繋ぐための交流の場として機能することを目指して日々の活動に取り組んでいる。

配食と地域食堂の実施で見えてきた 地域住民の交流のニーズを満たす

地域の高齢者向けの配食事業を町からの委託で行っている「敬愛福祉会」では、併せて学童保育も行っていたため、保護者などの要望に応じて子ども食堂も開催してきた。配食作業や子ども食堂の運営などを通して、単に食事をとるだけでなく、人と話をしながら食事をすることで孤独感を和らげたい、楽しい雰囲気を味わいたいという交流に対するニーズがあることを知り、子どもたちだけでなく、経済的困窮や身体的困難などを抱える人たちも対象に加え、地域住民全体の生活の質を向上させることを目的とする事業に取り組むことにした。

町の配食事業の対象でない人からでも相談があれば

個別訪問し、食事の提供や相談などを行った。また、子ども食堂は「地域食堂」と名称を変え、地域住民が年齢などの属性を意識することなく利用できるようにした。配食事業は月～金曜までの平日毎日、地域食堂は児童の長期休暇中と毎週水曜日に実施した。なお、地域食堂は「デイサービスやすらぎの里別府」が稼働しているときに実施しているので、高齢者や児童が一緒になって食事ができるようになっている。過疎地域のため、利用者の数は決して多くはなかったが、配食で215回、食堂でのべ230人の利用があった。配食事業をすることで行政が把握していない、困難を抱えている人の情報を得ることができ、その情報を行政の担当者などに適切に提供することができた。また、地域食堂に関しては他の地域からの視察もあった。



高齢者や児童と一緒に食事ができる「地域食堂」



「地域食堂」は高齢者と子どもの交流の場となっている

助成団体:社会福祉法人 敬愛福祉会

<https://keiai-beppu.or.jp>



助成のおかげで制度のはざまにある人たちの支援ができました

このような助成金は発達段階にある児童や、制度のはざままで人知れず困難を抱えている人たちの助けになるものだと思います。制度として確立されるまでには困難が多く、まだ社会的に認知されていないこともたくさんあります。それらが日の目を見るまでのあいだ、支援をよろしくお願いします。

社会福祉法人 敬愛福祉会
理事長 横張 寿希さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「学生服おゆずり会」事業

使わなくなった学生服をリユースすることで 経済的に困窮する家庭の子どもたちを支援する

福岡市と北九州市を拠点に、使わなくなった学生服を回収し、クリーニングや補修などを施してから、一人親家庭や経済的に困窮する家庭へ譲渡する活動を行っている「制服バンク福岡」。例年11月から12月にかけて「学生服おゆずり会」を実施しており、行政をはじめ、地域での認知度も高まっている。

経済的困難を抱える家庭の子どもたちに 安心して新生活を迎えられる環境を

子どもたちの入学時に必要となる制服の購入費用は家計への負担が大きく、特に生活保護世帯や一人親世帯などの経済的な困難を抱える家庭にとっては深刻な課題となっている。近年の物価上昇により、こうした家庭の経済状況はさらに厳しさを増しており、既存の行政支援や民間支援だけでは十分に対応しきれていない。なかでも課題とされているのが、児童扶養手当や生活保護世帯向けの入学支援金の支給時期が3月中旬であるにもかかわらず、一般的な入学準備は11月頃から始まり、学生服などは2月までに注文しなければ入学式に間に合わないことである。

こうした状況を踏まえ、「制服バンク福岡」では学生服

のリユースの必要性を強く認識し、使わなくなった学生服を回収し、クリーニングや補修などを施してから困窮する家庭へ譲渡する事業を開始した。2023年に北九州市で始めた学生服おゆずり会だが、2025年には福岡市でも開催した。なお、2025年11月の北九州市おゆずり会では110世帯へ364点、12月の福岡市おゆずり会では58世帯へ220点が譲渡されたほか、2026年3月には高校生向けのおゆずり会も開催し、14世帯へ23点を譲渡した。POSCの助成があったことで、11,000世帯の対象世帯にチラシを送付するなどの広報活動に力を注ぐことができたうえ、寄付された学生服をきちんとクリーニングして譲渡することが可能になり、多くの子どもたちに清潔で安心して着用できる学生服を届けることができた。



回収した制服を補修するスタッフ



学生服のリユース活動「学生服おゆずり会」

助成団体:特定非営利活動法人 制服バンク福岡

<https://seifuku-bank.com>



助成により活動の幅が広がり、多くの子どもたちに笑顔届けられました

2年連続で助成をいただき、心より御礼申し上げます。困窮家庭に寄り添った活動ができたことは、ひとえにご支援のおかげであり、今後も子どもたちの笑顔のために尽力いたします。また、助成団体交流会を通じ、多くの団体と意見交換する機会を得ることができました。

特定非営利活動法人 制服バンク福岡
代表 田中 博美さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「卒園生 壮行会」事業

児童養護施設などの卒園生が金銭感覚やマナーを学び、自信を持って社会へ踏み出すための準備に取り組む

泥の中でも美しく咲く蓮の花のように、どんな環境でも力強く成長してほしいという願いから設立された「HASU」。児童養護施設などを毎月定期訪問し、子どもたちや職員との信頼関係を築くことを活動の基盤としている。このたび社会に羽ばたく卒園生を応援するための特別イベントを開催した。

基本的なマナーリテラシーや社会生活上のマナーを学ぶ場を提供

「HASU」では毎月、児童養護施設を訪問し、職員の方々と連携しながら子どもたちに様々な体験や要望に応じたサポートを提供している。その関わりのなかで、卒園を目前に控えた子どもたちが、社会生活に必要な金銭管理の知識や基本的なマナーについて学ぶ機会が限られている現状を感じていた。そこで卒園前の節目の機会として、金銭教育に関する講座および社会的マナー講習を実施し、さらに実践の場として会食を体験する「卒園生 壮行会」を実施することにした。その活動に、POSCの助成を役立てた。

2026年2月8日に鹿児島大学内のレストランで行われたイベントには、参加予定17名のうち、14名（病欠2名、

早退1名）が参加した。給与管理や支出計画など社会生活に必要な基礎知識を学ぶマナー講座に続いて、基本的な社会的マナーを学び、その実践の場としてコース料理を楽しむ会食体験を実施した。さらに激励の言葉とともに、記念品の贈呈式を行った。当初は20名程度の参加を想定していたが、募集の段階では想像以上に調整が難しく、里親家庭にも声掛けの幅を広げて参加者を集めた。当日は参加した子どもたちだけでなく、同席した保護者の方々からも、「このような機会はなかなかない」「とても良い経験になった」と多くの感謝の言葉をいただいた。最初は緊張していた子どもたちも次第に笑顔になり、食事を楽しんでいる様子が印象的で、本事業の意義を改めて実感する機会となった。



社会生活に必要な基礎知識を学ぶ講座を開催



児童養護施設を卒園する子どもたちにとって有意義なイベントとなった

助成団体: 特定非営利活動法人 HASU

https://www.instagram.com/npo_hasu



社会へ踏み出す子どもたちの自信や励みにつながる機会になりました

このたびは本事業に対し、温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今回の機会を通して、卒園を迎える子どもたちに社会に踏み出す前の貴重な経験を提供することができました。今後も形を工夫しながら、子どもたちを支える活動を継続していきたいと考えております。

特定非営利活動法人 HASU
代表理事 道添 千佳子さん

特命助成

「ぱちんこ依存問題に関する相談および回復支援」事業

パチンコ依存問題に関する相談を通して、つながりの力で各々の生きる力を取り戻す

「リカバリーサポート・ネットワーク」では、遊技業界、民間、公的機関などと連携・協力しながら、パチンコなどの娯楽・遊技への過度ののめり込みに関する相談、啓発、予防などの事業を行っている。これらの事業を通じて、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に寄与することを目的に活動している。

パチンコ依存問題の電話相談をはじめ依存問題の啓発や予防などに取り組む

「リカバリーサポート・ネットワーク」は、パチンコ・パチスロの遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を行うことを目的に活動する非営利の相談機関である。様々な事業を行っているが、その主なものとしては、無料の電話相談（2025年4月～2026年2月実績：3575件、正規相談員6名、非正規相談員2名で対応）、広報・啓発（ニューズレター発行、啓発ポスター作成、自己診断アプリやe-ラーニングシステムの開発・提供など）、支援・連携活動（公的研究への協力、回復施設などとの連携・協力）、企画開催（セミナー・講演会など）、研修活動（相談技能などの研修）、資料作成・企画／出版などがある。

電話相談では日常的に不安を抱える人々が相談を寄せており、それに対して相談員が社会のつながりの力で生きる力を取り戻せるよう働きかけている。当初怒りをもって相談を寄せてきた方が、相談員の応対で穏やかになり、最後に感謝の言葉や「電話してよかった」と語ってくれる事例もある。このような直接的な感謝の言葉を聞けることは、相談員としてやりがいを感じる。なお、電話相談のデータは一年ごとにまとめて分析し、その結果を報告書にまとめ、PDF版をHPから無償で配布している。また、他の学術研究者とともにまとめたリカバリーサポート・ネットワークのデータ分析結果を学術誌などで報告している。こうした活動や報告書は、海外の研究者などからも高く評価されている。



ホール内に掲示されているポスター

助成団体: 認定特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク

<http://rsn-sakura.jp>



民間機関だからこそできる迅速で柔軟な対応を心がけています

機械に人間が翻弄される時代が到来するなかで、「安心を求めている人々」は多くいます。社会病理などへの行政の対応は民主的プロセスから遅れがちであり、迅速で柔軟な対応は民間団体が担わざるを得ません。その財政を支える一助となるPOSCの助成は、社会的に価値が高いものです。

特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク
代表理事 稲村 厚さん



大阪府遊技業協同組合
「特殊詐欺(ロマンス詐欺等)
被害防止啓発活動」事業



大阪府遊技業協同組合
理事長
平川容志さん

選考理由

大阪府遊技業協同組合は、20年近くにわたり「全国地域安全運動」にあわせて、地元警察や自治体と協力し多彩で大規模な防犯・安全活動を展開されてきた。昨年は、急増するSNS型投資詐欺やロマンス詐欺などに焦点を合わせ、タレント「タージン氏」を起用して市民への呼びかけ、ロマンス詐欺防止のポスターの作成と展示など、意欲的な活動が目立った。さらに防犯パトロール車両も継続して提供するほか、ラジオや新聞による広報活動にも注力された。久しぶりの大賞の受賞に、心から敬意と祝意を表したい。

社会貢献活動審査委員会
委員長代行
野口 昇氏



巧妙さを増す特殊詐欺の
被害防止に
地元警察とともに
地域密着で取り組む

安全・安心まちづくりキャンペーンで
投資詐欺やロマンス詐欺等にスポット

いわゆる「特殊詐欺」が後を絶たない。特殊詐欺とは、電話やSNSなどを通じて対面することなく信頼させ、指定した口座への振込みやその他の方法により、不特定多数の人から現金などを騙し取る犯罪である。その手口や方法はますます巧妙になってきており、ニセ警察詐欺、オレオレ詐欺、預貯金詐欺、架空料金請求詐欺、還付金詐欺、キャッシュカード詐欺盗、SNS型投資詐欺、SNS型ロマンス詐欺などが代表的な特殊詐欺とされている。

かねてからひったくりなどの街頭犯罪の防止事業に取り組んできた大阪府遊技業協同組合（以下、大遊協）では、2018年より同事業の名称を「安全・安心まちづくりキャンペーン」と改め、毎年、秋の全国地域安全運動期間（10月11日～20日）に合わせて啓発事業を実施している。昨年は、大阪府警察本部との共催で、府内でも急増しているSNS型投資詐欺やSNS型ロマンス詐欺などの特殊詐欺被害の防止啓発に焦点をあてたキャンペーンに取り組むことにした。

まず、全国地域安全運動期間中に地元警察や自治体と協力して、タレントのタージンさんを特殊詐欺撲滅隊長や一日警察署長とする安全・安心まちづくりキャンペーンを府内8ヵ所（鶴見、福島、門真、東淀川、豊中、四條畷、天王寺、都島）で実施した。また、「ロマンス詐欺でキュンとくるセリフシリーズ」と題した4パターンのポスター（6,000枚）を作成し、主要駅や商業施設などに4枚1組で掲示した。



大遊協が実施した防犯キャンペーンの活動を伝えるポスター



「ロマンス詐欺でキュンとくるセリフシリーズ」ポスター（4パターン）

タレントを起用したキャンペーンや
ポスター、ノベルティ作成などで効果

安全・安心まちづくりキャンペーンの会場では、「大きな声で失礼します!」で始まるタージン氏の軽妙なトークやコント仕立ての防犯教室などに多くの通行人や買い物客が足を止め、特殊詐欺被害防止の話に聞き入っていた。

キャンペーンに合わせ、大阪府警の特殊詐欺被害防止啓発キャラクター「かもすけさん」と「+（国番号）から始まる国際電話番号に注意!」の文言が外袋に印刷されたパイナップル（41,200袋）、ロマンス詐欺被害防止標語を表紙に印刷したメモ帳（30,000部）などを作成して大阪府警に寄贈し、啓発活動に役立ててもらった。また、4パターンのポスターの一括掲示は、一見すると昨今流行のアニメ作品風に見えることで、幅広い年代から関心を集めていた。

大遊協ではキャンペーンを実施する8ヵ所の警察署担当者などとの日程調整等の打ち合わせやキャンペーン開催場所の実地調査などを行ったほか、地元ラジオ局2局を通じたキャンペーンの事前告知、『読売新聞』への広告記事掲載、ホール版ポスターの作成などで、本事業の広報に努めた。

大阪府内のSNS型投資詐欺、SNS型ロマンス詐欺認知件数月別推移（令和7年中・速報値）では、10月中198件から11月中125件へと一時的にはあるが減少に転じたことから、本事業の効果があったものと推定される。今回の活動に対し、大阪府安全なまちづくり推進会議会長（大阪府知事）から感謝状が贈られた。

電話による特殊詐欺被害を防ぐため 新マスコットを活用した啓発に協力

熊本県遊技業協同組合

「『電話で「お金」詐欺』等
対策マスコット『ワルモン』を用いた
被害防止対策支援」事業



理事長
藤井俊博さん

選考理由

詐欺が高齢者ばかりでなく若者にも触手を擡げている事を知り、智慧と手を差し伸べた。熊本県警のマスコット「ワルモン」を活用して被害防止対策グッズを各種考案して県警防止キャンペーンに提供した。さらに、ターゲットとなってきた若者に周知徹底が必要と考え、大学生などの2団体に声をかけをし、自らの世代の問題と共感した若い声は同世代に響いたであろう。官と若者と業界、3者が一体となった連帯活動は明るい波となってマスコミの注目するところとなり、一層世間から好感を持って見守られる活動となった。

社会貢献活動審査委員会 委員 協田直枝氏

キャンペーン用グッズの製作・寄贈と 啓発チラシの街頭での配布に参加

全国規模で頻発する特殊詐欺だが、その主要な手口の一つが電話を使ったものである。熊本県でも特殊詐欺による被害が急増しており、熊本県警によると、2025年1月～8月末までの県内の電話による詐欺被害は145件、約6億6,200万円で、2024年一年間の被害額である約4億4,000万円をすでに上回っている。そのため熊本県警では、昨年9月15日の敬老の日に、「電話で『お金』詐欺」被害防止キャンペーンを実施することにした。

そこでお披露目されたのが、熊本県のマスコットキャラクター「くまモン」に似た県警のマスコットキャラクター「ワルモン」である。

熊本県遊技業協同組合では傘下の熊本市遊技業協同組合と共催で、県警生活安全企画課と連携しながら、このキャンペーンの支援事業に取り組んだ。まずはワルモンを

フィーチャーしたインタビューボード（1台）、ステッカー（6,000枚）、のぼり旗（56枚）、パトカー貼付マグネット（230枚）、エコバッグ（3,000枚）、大型パネル（2枚）などのキャンペーン用グッズを製作して寄贈した。さらにワルモンが電話でだます手口を紹介し、注意を呼びかけるキャンペーンの当日には、会場となった熊本市中央区のびぶれす広場周辺の街頭で、大学生などで構成される防犯ボランティア団体「防犯若武者ベアーズ」や「熊本城おもてなし武将隊」などと協力して、熊本県遊技業協同組合青年部会のメンバーが啓発チラシの配布を行った。

キャンペーンの模様は地元テレビ局や新聞などで報道されたほか、被害防止活動に積極的に協力した功績により、県警生活安全部長から感謝状が贈呈された。



「電話で『お金』詐欺」被害防止キャンペーンにて青年部会のメンバーが啓発チラシの配布



県警のマスコットキャラクター「ワルモン」のグッズを制作して寄贈

地域から特殊詐欺被害を出さないため 支部一丸となって防止活動に取り組む

焼津市遊技業組合

（静岡県遊技業協同組合）

「地元警察署と連携した
『特殊詐欺被害防止活動』」事業



組合長
安田芳明さん

選考理由

焼津警察署、焼津地区防犯協会が主催する「特殊詐欺被害防止活動」に運動し、特殊詐欺被害防止専用の広報用ベスト250着の作成と寄贈と特殊詐欺被害発生ゼロの日に広報用ベストを着用して各店舗内での広報活動を行った。これらの社会貢献活動は焼津市で初めての試みであり、広報活動参加人数は焼津市遊技組合員だけでなく、焼津警察署、焼津地区防犯協会、地域安全推進員、市役所職員等延べ参加人数が約1,300人を超える活動に発展し、「特殊詐欺被害撲滅」に向けた機運が焼津市内で大きく高まる成果を得た事は評価できる。

社会貢献活動審査委員会 委員 荒生 均氏

特殊詐欺被害防止専用ベストの作成と ホールスタッフによる継続的広報活動

警察庁のホームページによれば、2025年に全国で発生した特殊詐欺件数は27,758件、被害額の合計は約1,414億に達している。連日のようにマスコミなどでその被害が報道されているが、一向に収まる気配がない。被害を防ぐためには一人一人の徹底した対策はもちろん、身近な生活圏レベルでの日常的な注意喚起が必要である。その一助となる活動に取り組んだのが、静岡県遊技業協同組合焼津支部（焼津市遊技業組合）である。

同組合では2024年中の焼津警察署管内での特殊詐欺被害額が約1億円と増加傾向にあったことから、その増加に歯止めをかけるため、警察署、焼津地区防犯協会からの要請に基づき、地域に対する社会貢献活動の一環として、特殊詐欺被害防止専用の広報用ベスト（250着）を作成し、寄贈した。視認性の高い蛍光イエローのベストは、

前面に「特殊詐欺被害ゼロ運動実施中」、背面に「騙されないでその電話!! 焼津市から特殊詐欺撲滅」の文言がプリントされている。そのうち100着を組合傘下のパチンコ店8店舗のホールスタッフ用に配布し、150着は地域安全推進員、市役所職員用として寄贈した。毎月15日に実施される「特殊詐欺被害発生ゼロの日」には、組合員ホールのスタッフがホール内で一日中、このベストを着用して広報活動を行っている。

こうした取り組みが呼び水となり、焼津地区防犯協会長が焼津市内の自治会連合会長、副会長、教育長、事業所代表など40名を集めて「焼津市特殊詐欺被害防止緊急対策会議」を開催するなど、特殊詐欺被害撲滅に向けた機運が高まっている。



安田組合長から焼津地区防犯協会副会長への広報用ベストの目録贈呈式



寄贈した広報用ベスト

地域に貢献できる企業をミッションに 必要とされる資金を継続的に寄付する

三重県 株式会社キング観光 「キング観光コミュニティ アシストR7」事業



代表取締役社長
権田 清さん

選考理由

近年、穏やかだった地域にも様々な事故や犯罪が頻発し安全への対策・防備は欠かせなくなってきている。桑名市キング観光は永年にわたって、地域に防災カメラの設置費用寄付、桑名市総合医療センターへの資金援助、日本介助犬の育成資金援助、防災対策車・青パト車の寄贈、さらには交通安全事故防止対策への援助など、実に多様な社会貢献を行っており、その支援総額は9千万円を超える。その組合ホルの「地域コミュニティの火を消さない」という熱意ある活動は最優秀表彰に値する。

社会貢献活動審査委員会 委員 永井多恵子氏

地域社会の持続に欠かせない事業を 息の長い資金援助によって支える

三重県桑名市に本社を置き、同県のほか愛知県、滋賀県、和歌山県に25店舗を展開する「株式会社キング観光」は、2026年5月に創業60周年を迎えた。同社では創業当初から地域貢献や社会貢献活動に積極的に取り組み続け、現在では地域コミュニティの持続を支えるために欠かせない企業として認知されている。

2025年中に実施した活動としては、1月に「公益社団法人 愛知県安全運転管理協議会」を通じて、愛知県内の交通事故防止活動を支援するための寄付（10万円）を行った。6月には愛知県長久手市にある「日本介助犬訓練センター シンシアの丘」を訪問し、活動資金（300万円）を寄付した。これで7年連続での寄付となり、累計額は2,100万円に達した。同じく6月には、地域医療の中核を担う「桑名市総合医療センター」に対し、医療従事者等の活動支援とし

て1,000万円を寄付した。これは医療現場において人命救助のために献身的に活動する姿勢に感銘を受けたことから始まったもので、2019年から7年連続で実施され、総額は7,000万円となっている。なお、同センターでは寄付金の一部を活用して「権田記念病院貢献賞」を2023年に創設し、病院の業務改善などに貢献した部門や職員を表彰している。8月には桑名市に対して、防災用車両として5人乗り4WDのプラグインハイブリッドカー、ならびに青パト（各1台）を寄贈した。12月には桑名市と桑名市観光協会に対し、桑名駅西土地区画整理事業の一環として予定されている複合交流施設の公衆トイレと大型ビジョンの建設・設置にかかわる費用（5,264万円）を寄付した。



「日本介助犬訓練センター シンシアの丘」への活動資金の贈呈式



桑名市に寄贈した防災用車両の贈呈式

防犯ネットワークの構築を目指して 警察と協力して有効的な対策を実施

岡山県パチンコ・パチスロ業協同組合 「警察と連携した『犯罪の起きにくい 社会づくりに関する協定』対策」事業

岡山県パチンコ・パチスロ業協同組合
理事長 千原行喜さん

侵入者に対する高い威嚇効果を持つ ソーラー式屋外用センサーライトを寄贈

近年、複雑多様化・頻発化する犯罪に対して、警察による取締りだけに頼るのではなく、自分たちの手で安全や安心を確保しようとする機運が全国的に高まっている。その後押しとなるのが、地域社会で事業を営む企業などのサポートである。岡山県パチンコ・パチスロ業協同組合では、2017年9月に岡山県警察本部と「犯罪の起きにくい社会づくりの推進に関する協定」を結び、相互に連携しながら防犯ネットワークを構築し、犯罪の起きにくい社会の実現を目指している。

この協定に基づき、定期的な検討会を重ねるなどの取り組みを行っているが、その一環として防犯関連機材などを寄贈している。これまでに防犯カメラ、防犯対策用電話録音機などを贈ってきたが、2025年2月には岡山県パチンコ・パチスロ業防犯協力が、公益社団法人岡山県防犯協

会を通じて、岡山県警にソーラー式の屋外用センサーライト（300台、協力会のシール貼付）を寄贈した。これは闇バイトによる強盗事件が全国的に多発していることを受けての対策で、夜間に敷地内に侵入者があるとセンサーが感知し、フラッシュが点滅することで、高い威嚇効果を発揮するものである。岡山県警では希望する家庭に配布したが、配布された家庭からは高い評価を受けているという。

県警本部の会議室で行われた贈呈式には、岡山県警生活安全企画課長、岡山県防犯協会専務理事、岡山県パチンコ・パチスロ業防犯協会会長などが参加し、会長である千原行喜氏から「近頃は闇バイトを使った凶悪犯罪が発生している。県民の平穏な生活を守るために有効活用してほしい」と挨拶した。



防犯機材（ソーラー式の屋外用センサーライト）の贈呈式



防犯機材の寄贈活動に対し県警から感謝状が授与された

新型コロナ禍以降に困難な状況にある 障がい者福祉施設利用者への継続支援

広島県遊技業協同組合

「障がい者福祉施設利用者の方々へ
『働く場と機会』を提供」事業

広島県遊技業協同組合
理事長 延川草喜さん

正月の来店客へ提供する飲料への 謹賀新年シールの貼付作業を依頼

新型コロナウイルス感染症の猖獗は、社会の様々な分野や領域に大きな影響や被害をもたらした。2023年5月に5類感染症に移行したものの、その影響が未だに続いているところもある。その一つが、障がい者福祉施設などの利用者に依頼される作業の減少である。こうした施設では、作業を通じて、障がい者に働く場と機会を提供するとともに、社会活動への参加と労働意欲の促進につなげている。

広島県遊技業協同組合（以下、広島県遊協）では、「新型コロナ禍以降、企業から受託する作業依頼数が減少している」という福祉協議会関係者から寄せられる声に応える形で、「大竹市社会福祉協議会」、呉市の「社会福祉法人 かしの木」、福山市の「社会福祉法人 芙蓉の家」の利用者に対して、2024年12月にシール貼付の作業を依頼した。この作業は、正月三が日に組合員ホールへ来店し

たお客様に総付景品または端玉賞品として提供される飲料品に「謹賀新年シール」を貼付するものである。企画に賛同する68ホールの組合員ホールが「株式会社ヤクルト山陽」から飲料品を購入（合計56,952本、約217万円）したうえで、シールの貼付作業料金として、3ヵ所合計で12万5,358円を贈呈した。

作業開始に先立ち、広島県遊協理事長、同役員、およびヤクルト山陽関係者などが依頼先の施設を訪れて作業開所式を開催したほか、2025年1月には広島県遊技会館において貼付作業料金の目録贈呈式を行った。この事業は今回が2回目の実施であったが、福祉協議会関係者からは、「作業依頼が減る中で、とてもありがたい。今後も継続してほしい」と要望が寄せられている。



「謹賀新年シール」が貼付された飲料品



シール貼付作業料金の目録贈呈式

依存問題対策に取り組む自治体に対し 対策協力金250万円を2年連続で寄贈

桑名支部（三重県遊技業協同組合）

「三重県桑名市との依存問題対策に
関する連携協定に基づく継続」事業

三重県遊技業協同組合
支部長 中川岳大さん

桑名市と依存問題に関する協定を 締結して連携して対策に取り組む

遊技業界にとって喫緊の課題であるギャンブル等依存症の問題について、国や地方公共団体は対策推進計画を定めるなどして、主体的に取り組むことが法律で定められている。三重県でも「ギャンブル等依存症対策推進計画」を定め、市町や業界団体との連携を重視している。

その計画の具体策が、2024年7月に桑名市と三重県遊技業協同組合（以下、三遊協）ならびに桑名支部との間で締結された「依存問題対策に関する連携協定」である。市政方針の一つとして依存問題対策を掲げる桑名市が、県内の医療機関や相談機関などとの協力を進める中で、依存問題に精力的に取り組んできた遊技業界の経験に着目し、依存対策の情報提供や共有などで三遊協に連携を要請したことから実現した協定である。

また、連携の要請を受けた三遊協桑名支部では、協定締

結時に桑名市に対して対策協力金として250万円を寄付しているが、対策の更なる充実を目的に、2025年9月にも対策協力金として250万円を桑名市に寄付した。

資金支援を受けた桑名市では、ワンストップ窓口体制、再発防止のための見守り体制、未然防止体制を構築することができ、その結果、現在では月に6件ほどの相談を受け、専門の医療機関や「こころの医療センター」などとの連携がスムーズになったほか、10代の子どもを持つ親などからゲーム依存に関する相談も多く寄せられ、青少年保護の観点からも有効な対策ができています。

市では、「今後も三重県遊技業協同組合や桑名支部と連携を密にし、さらに対策を充実させるとともに、他の市町にも取り組みを発信していきたい」と話しており、今回の寄付に対して、桑名市長から三遊協の権田理事長に感謝状が贈呈された。



桑名市との締結式で実施した協力金の贈呈式



依存問題対策に関する連携協定や協力金の贈呈に対して感謝状を授与

難病治療の子どもや家族を支える 宿泊滞在施設へ物品や作業の提供

神奈川県 株式会社東横商事

「重度の医療患者向け宿泊施設及び
利用者への支援事業18年」事業

株式会社東横商事
代表取締役 飯島隆史さん

毎月2回の定期訪問を18年間継続し、 必要とされる物品や作業を直接提供

神奈川県横浜市戸塚区に4店のパチンコホール「東横フェスタ」を展開する「株式会社東横商事」は、健全な地域社会づくりへの貢献を使命の一つに掲げ、消費電力の削減、非常災害時の食料支援や避難場所としての店舗・駐車場の無償開放など、様々な活動に取り組んでいる。

同社が2008年から継続して実施しているのが、「神奈川県立こども医療センター」が「認定NPO法人 スマイルオブキッズ」と協力して管理・運営する宿泊滞在施設「リラのいえ」への支援である。同施設は難病治療で受診する子どもや付き添い家族が通院しやすいようにと設けられた患者・家族の施設で、きょうだい児の預かり保育なども行っている。同社では毎月2回、従業員数名がローテーションで訪問し、飲料水、インスタント食品、消耗品などの支援物品を届けるほか、施設内の清掃・保全作業、業務の手伝

いなどを行っている。2025年は支援物品としてミネラルウォーター3,500本、レトルト食品 250個、カップ麺 350個、カップスープ100個、カップみそ汁 450個などのほか、お米、トイレトペーパーなどを提供した。

これまでの18年間で、延べ約850名の従業員が活動に参加しているが、現在では本社やグループ会社の役員も含めて本事業に携わっており、グループ全体の社会貢献活動の大きな柱の一つとなっている。訪問する従業員のなかには新卒で親元から遠く離れて暮らす若手も多く、家庭の温もりを感じるひとときとなったり、献身的に子どもを看病する両親や家族の姿に触れることで、親のありがたさや健康であることの幸せ、懸命に生き抜く姿勢の尊さなどを見つめ直す機会にもなっている。



毎月2回、施設に向き飲料水、インスタント食品、消耗品などの支援物品を寄贈



施設内の清掃・保全作業、業務の手伝いなども実施

「すべての人がハッピーに」の思いで お菓子や未受領品を福祉施設等に提供

富山県 澤田グループ 株式会社ノースランド

「スマイルプレゼント」事業

澤田グループ 株式会社ノースランド
代表取締役 澤田辰勇さん

15年以上続くスマイルプレゼントや ファン感謝デー未受領品の寄贈

富山県内に「ノースランド」の屋号で14ホールを展開する「澤田グループ 株式会社ノースランド」では、「愛される人間・愛される企業」を理念に様々な社会貢献活動に取り組んでいる。その象徴とも言えるのが、お客様、従業員、関連企業など同社に関わるすべての人々に笑顔でハッピーになっていただきたいという思いを込めて実践している「スマイルプロジェクト」である。

その一環として2010年から実施しているのが、全店の店頭に設置されたスマイルボックスにお客様から寄付されたお菓子を、県内の児童・障がい者・高齢者福祉施設などへ店舗スタッフが直接届け、交流を深める「スマイルプレゼント」である。お菓子の管理、梱包、配送先との調整、運搬までのすべての作業をスタッフが行い、2025年には計8施設に届けたが、これまでに寄贈した県内の施設や団体はのべ480以上に上っている。

このほかにも、9月にはファン感謝祭において全店で引き

換えられなかったお菓子やインスタント食品、日用品などの未受領品781点を「社会福祉法人魚津市社会福祉協議会」に寄贈したが、これらの物品は同協議会を通じて、ひとり親家庭や自立生活の支援が必要な方に届けられることになっている。また、7月にはファン感謝デーの未受領品765点や災害備蓄品（液体缶ミルク）384本、2026年3月には未受領品372点を「NPO法人フードバンクとやま」に寄贈した。

同社ではこれらの活動のほかにも、地域に根差した社会貢献活動の一環として、富山県内の保育園や児童福祉施設への遊具寄贈を実施している。加えて、節分やクリスマスなどの行事において社員が仮装して参加し、子どもたちとの交流の場を設けることで、物的支援と人的交流の両面から地域福祉の向上に寄与している。さらに、国内や海外での災害や紛争発生時における義援金や救援金の募金・寄付、プルタブ・エコキャップの回収、地域清掃活動などの社会貢献活動にも継続的に取り組んでいる。



寄付されたお菓子を県内の福祉施設などへ届ける「スマイルプレゼント」



お菓子以外にも日用品や災害備蓄品、遊具等も寄贈

新入学児童が安全に通学できるよう
ランドセルカバーを長年にわたり寄贈

宮崎県 株式会社西の丸
「小学校新入学児童へ
ランドセルカバー贈呈」事業

株式会社西の丸
代表取締役社長 西谷淳さん

地域への感謝と報恩の心を基本に
清掃活動やランドセルカバー寄贈

宮崎県東臼杵郡門川町に本社を置き、延岡市などに6ホールを展開する「株式会社西の丸」は、1976年の設立以来、「お客様が喜ばれる姿を見て我が喜びとする」ことを原点に、感謝・報恩の心で様々な社会貢献活動を実践している。その核となるのが、1994年に始まった「一善の会」で、毎月、延岡市、日向市、門川町などの道路、公園、海岸、駅、公共施設などでゴミ拾いや除草、花壇の植栽や手入れなどの美化・清掃活動に取り組んでいる。

さらに1999年から続けているのが、延岡市、日向市、東臼杵圏域にある小学校の新入学児童を対象に、反射材付きの黄色のランドセルカバーを贈る事業である。これは新入学児童の防犯および交通事故防止を目的にしたもので、子どもたちが安心して通学できる環境づくりに寄与することを目指している。毎年、各教育委員会を通じて新入学児

童数を事前に把握したうえで、ランドセルカバーの発注や仕分け作業を実施し、併せて各地区の交通安全協会と連携しながら、各所轄において贈呈式を行っている（東臼杵圏域については各自治体へ送付）。2025年度は1,582枚（約45万円相当）のランドセルカバーを贈ったが、これまでの27年間で累計贈呈枚数は6万枚に達する。地域や行政、関係機関や団体に根付いた活動として定着し、高い評価を得るとともに、活動の継続性や社会奉仕性が認められ、関係機関などから感謝状が授与されている。

そのほかにも同社では、青パトによる自主防犯パトロール、福祉施設入所学生に対する支援金と年賀状の贈呈、宮崎県企業協働河川アダプト制度による河川環境美化活動などにも継続的、積極的に取り組んでいる。



ランドセルカバーの寄贈式



継続的に実施している河川環境美化活動

第21回社会貢献大賞 受賞一覧

1、社会貢献大賞

申請団体		事業名
大阪府	大阪府遊技業協同組合	「特殊詐欺（ロマンス詐欺等）被害防止啓発活動」事業

2、社会貢献賞

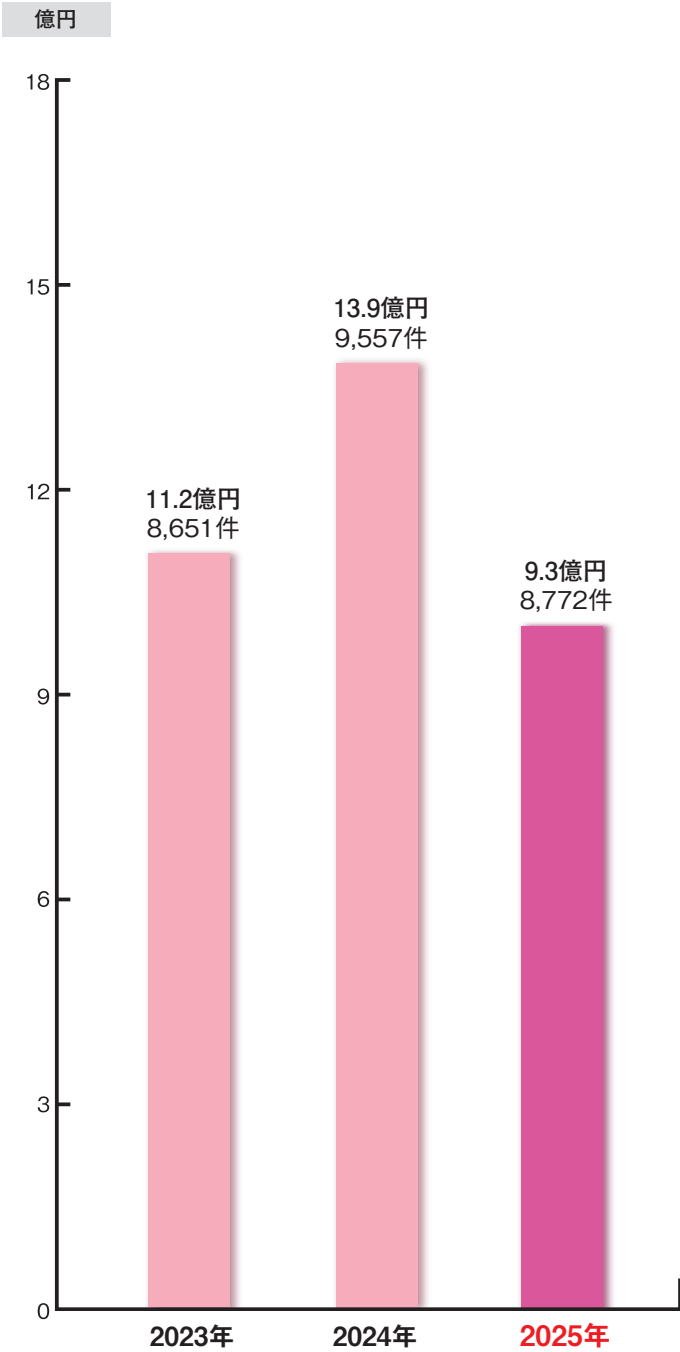
		申請団体	事業名
都道府県組合部門	最優秀賞	熊本県遊技業協同組合	「『電話で「お金」詐欺』等対策マスコット『フルモン』を用いた被害防止対策支援」事業
	優秀賞	岡山県 パチンコ・パチスロ業協同組合	「警察と連携した『犯罪の起きにくい社会づくりに関する協定』対策」事業
		広島県遊技業協同組合	「障がい者福祉施設利用者の方々へ『働く場と機会』を提供」事業
支部組合部門	最優秀賞	焼津市遊技業組合 （静岡県遊技業協同組合）	「地元警察署と連携した『特殊詐欺被害防止活動』」事業
	優秀賞	桑名支部 （三重県遊技業協同組合）	「三重県桑名市との依存問題対策に関する連携協定に基づく継続」事業
組合員ホール部門	最優秀賞	株式会社キング観光（三重県）	「キング観光コミュニティアシストR7」事業
	優秀賞	株式会社東横商事（神奈川県）	「重度の医療患者向け宿泊施設及び利用者への支援事業18年」事業
		澤田グループ 株式会社ノースランド（富山県）	「スマイルプレゼント」事業
		株式会社西の丸（宮崎県）	「小学校新入学児童へランドセルカバー贈呈」事業

2025年 永年・特別永年活動顕彰一覧

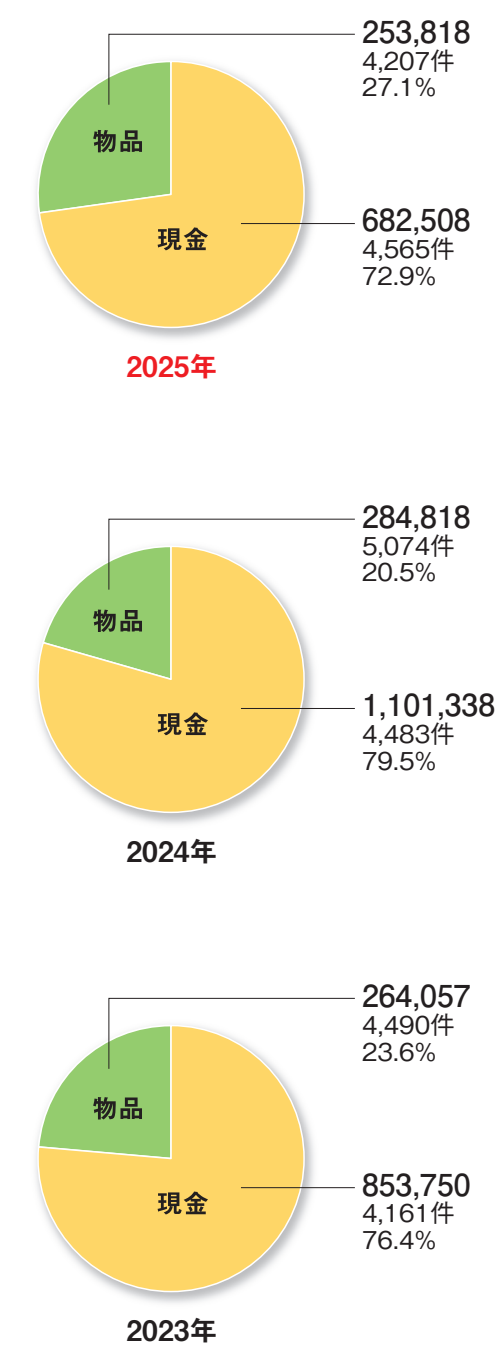
		申請団体	事業名
都道府県組合部門	永年	千葉県パチンコ・パチスロ店協同組合	夢まるふぁんど事業（文化・国際、福祉、地域振興支援事業）
支部組合部門	永年	秋田中央遊技業協同組合 （秋田県遊技業協同組合）	秋田市市内の母子世帯援助施設に対する支援活動
		館林遊技業組合 （群馬県遊技業協同組合）	「子どもを守る地域貢献」として防犯ブザーを寄贈
	特別永年	垂水区暴力団と関係を断つ会遊技業分会 （兵庫県パチンコ・パチスロ協同組合）	垂水区暴力団追放キャンペーン 垂水区暴力団と関係を断つ会
		津山支部 （岡山県パチンコ・パチスロ業協同組合）	長期間にわたる社会福祉活動
組合員ホール部門	永年	広島市遊技業防犯協力会・広島市遊技業防犯協力会広島中央支部（広島県遊技業協同組合）	少年ソフトボール大会の共催
		株式会社ニラク （福島県遊技業協同組合連合会）	須賀川市 釈迦堂川花火大会観覧場所の無料開放とイベントの実施
	特別永年	株式会社白鳳／プレーゾーン白鳳 （山梨県遊技業協同組合）	地元消防団等への活動助成寄付金活動及びフードバンク山梨への食品菓子等の継続的寄付活動"

2025年 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果

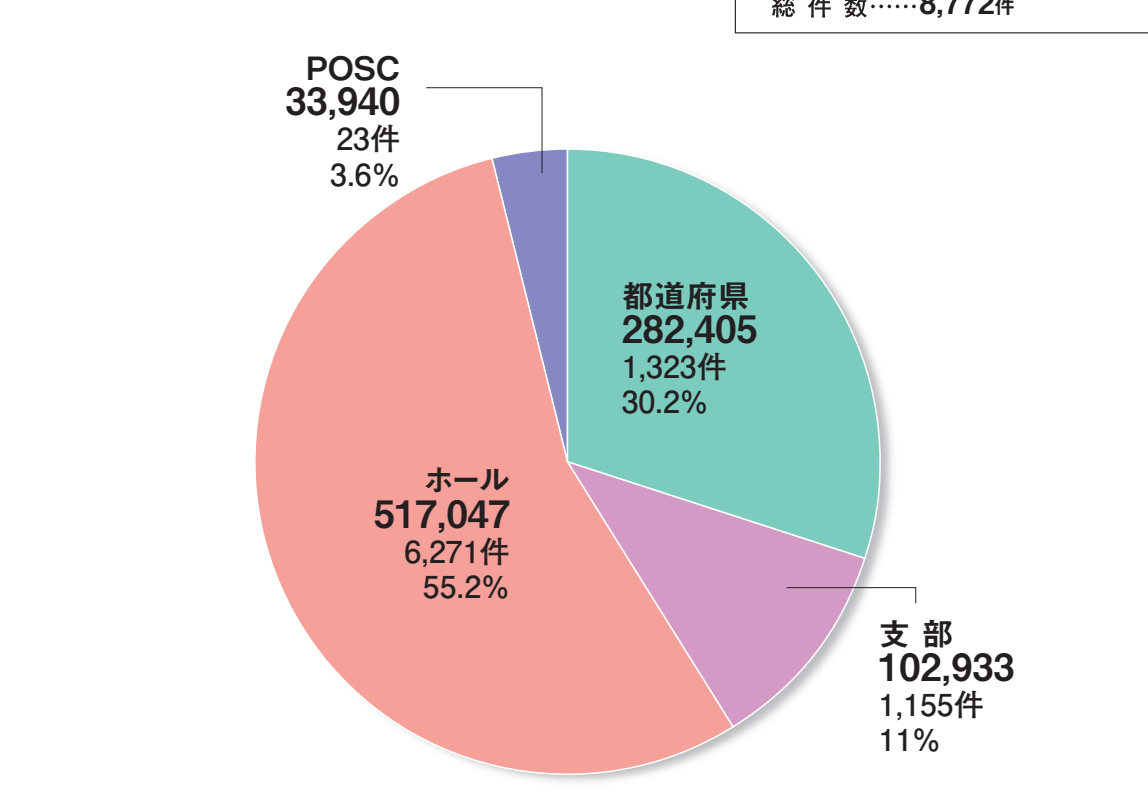
年別 提出額と提出件数



年別 現金・物品の割合 (単位:千円)

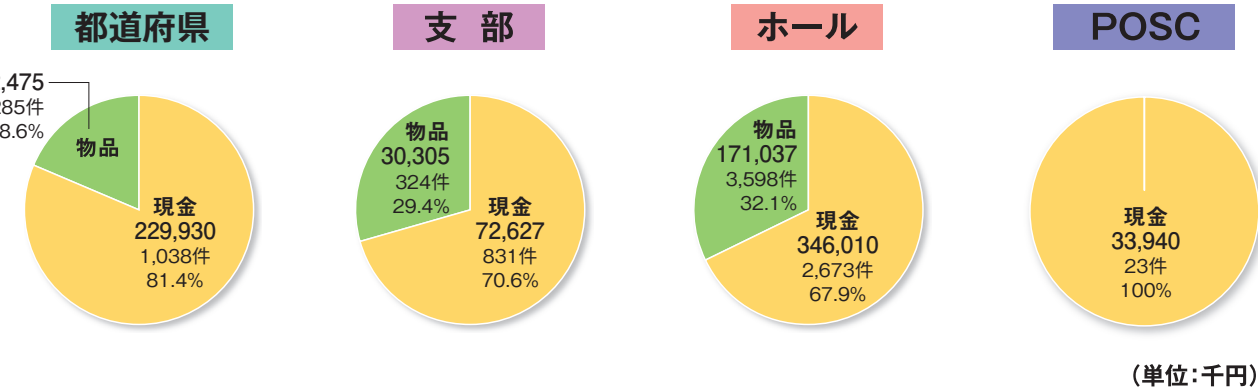


2025年提出元別 提出額と割合 (単位:千円)



2025年提出元別 現金・物品の割合

※物品は現金換算した金額です。
※グラフに記載されている金額はすべて下3ケタを四捨五入しています。したがって合計が合わない場合があります。

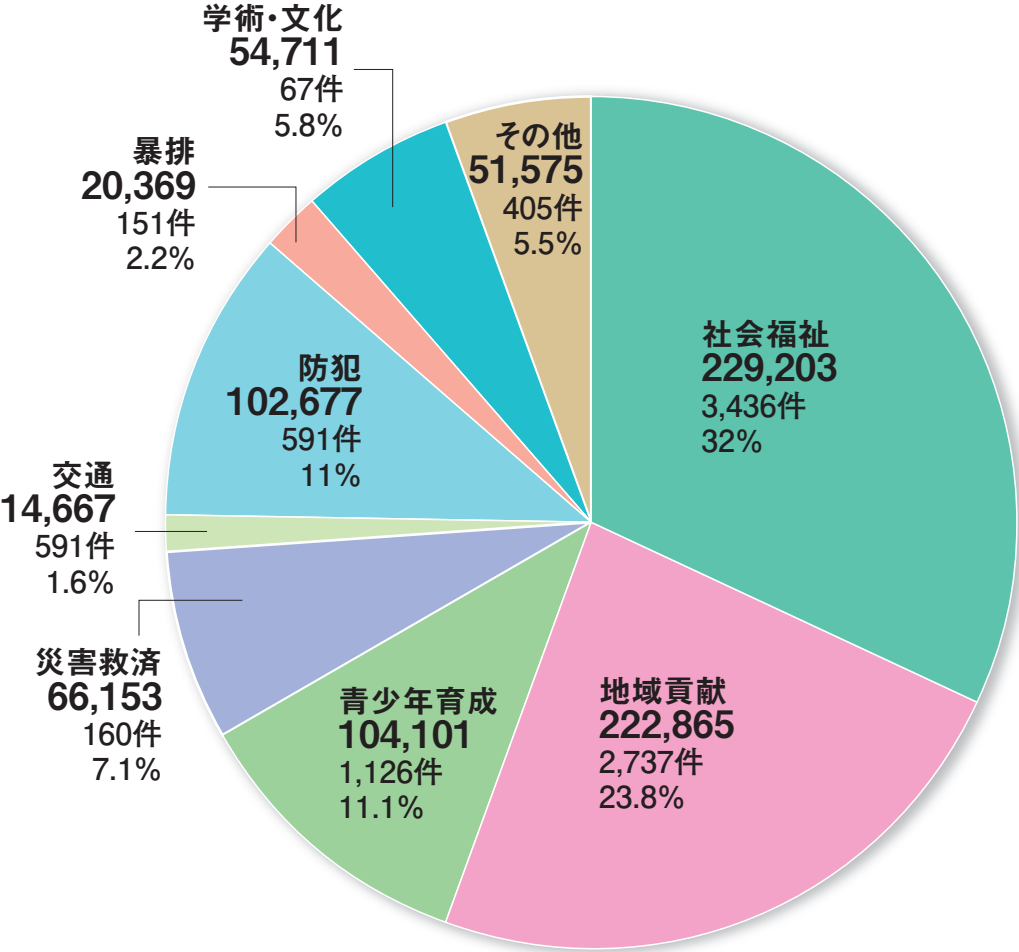


対象期間		2023年	2024年	2025年
提出総額 (件数)		1,117,806,795 円 (8,651 件)	1,386,156,666 円 (9,557 件)	936,325,781 円 (8,772 件)
内訳	現金提出額 (件数)	853,750,218 円 (4,161 件)	1,101,338,450 円 (4,483 件)	682,508,189 円 (4,565 件)
	物品提出額 (件数)	264,056,577 円 (4,490 件)	284,818,216 円 (5,074 件)	253,817,592 円 (4,207 件)

提出元		都道府県	支部	ホール	POSC
提出総額 (件数)		282,405,036 円 (1,323 件)	102,933,281 円 (1,155 件)	517,047,464 円 (6,271 件)	37,350,000 円 (23 件)
内訳	現金提出額 (件数)	229,929,772 円 (1,038 件)	72,627,920 円 (831 件)	346,010,497 円 (2,673 件)	37,350,000 円 (23 件)
	物品提出額 (件数)	52,475,264 円 (285 件)	30,305,361 円 (324 件)	171,036,967 円 (3,598 件)	—

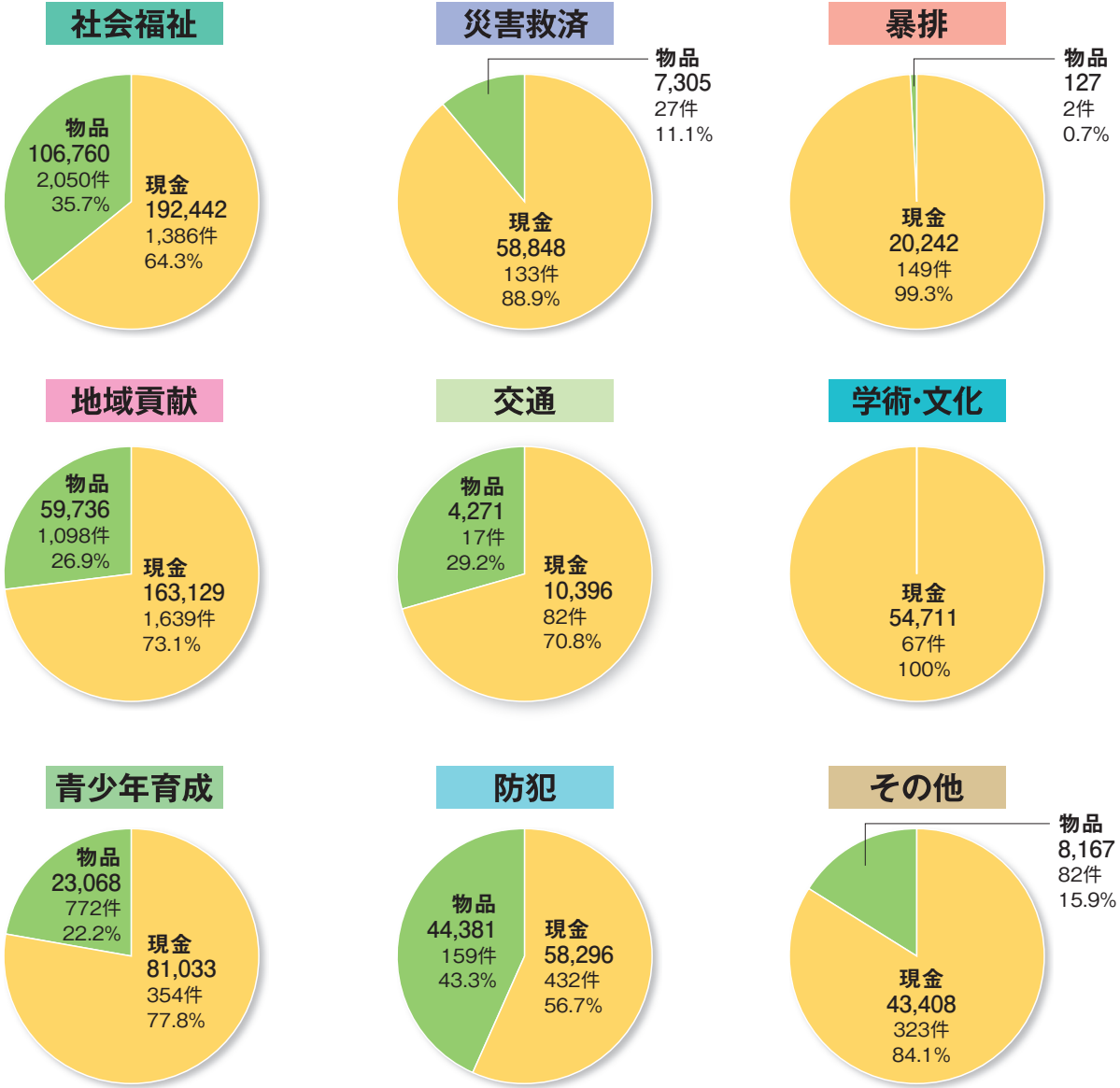
2025年分野別 拠出額と割合 (単位:千円)

総拠出額..... 936,325,781円
総 件 数..... 8,772件



2025年分野別 現金・物品の割合 (単位:千円)

現金総額..... 682,508,189円
件 数 4,565件
物品総額..... 253,817,592円
件 数 4,207件



拠出内容		社会福祉	地域貢献	青少年育成	災害救済
拠出総額 (件数)		229,203,460 円 (3,436 件)	222,865,270 円 (2,737 件)	104,101,604 円 (1,126 件)	66,153,679 円 (160 件)
内訳	現金拠出額 (件数)	192,442,601 円 (1,386 件)	163,129,016 円 (1,639 件)	81,033,447 円 (354 件)	58,848,429 円 (133 件)
	物品拠出額 (件数)	106,760,859 円 (2,050 件)	59,736,254 円 (1,098 件)	23,068,157 円 (772 件)	7,305,250 円 (27 件)

拠出内容		交 通	防 犯	暴 排	学術・文化	その他
拠出総額 (件数)		14,667,272 円 (99 件)	102,677,653 円 (591 件)	20,369,958 円 (151 件)	54,711,250 円 (67 件)	51,575,635 円 (405 件)
内訳	現金拠出額 (件数)	10,396,084 円 (82 件)	58,296,631 円 (432 件)	20,242,436 円 (149 件)	54,711,250 円 (67 件)	43,408,295 円 (323 件)
	物品拠出額 (件数)	4,271,188 円 (17 件)	44,381,022 円 (159 件)	127,522 円 (2 件)	0 円 (0 件)	8,167,340 円 (82 件)

都道府県別 社会貢献・社会還元金集計表(総金額)

(総金額)

※総金額は現金と物品を現金換算した金額の総額です。

都道府県 (組合)		拠出内容(金額)									合 計
		社会福祉	地域貢献	青少年育成	災害救済	交 通	防 犯	暴 排	学術文化	その他	
東 北	北 海 道	9,644,268	5,858,447	0	4,015,000	50,000	54,440	72,100	200,000	21,900	19,916,155
	青 森	5,216,119	1,499,822	471,288	241,110	235,000	1,708,280	225,000	40,000	655,460	10,292,079
	岩 手	2,873,432	3,119,373	247,500	1,778,959	50,000	2,217,500	616,000	10,000	809,182	11,721,946
	宮 城	4,601,005	1,120,412	47,000	157,992	2,800,000	4,490,000	1,040,000	0	859,000	15,115,409
	秋 田	1,455,282	3,443,218	0	30,000	214,000	526,114	70,000	0	60,000	5,798,614
	山 形	885,305	1,394,602	495,200	20,000	0	315,000	10,000	0	6,129,120	9,249,227
	福 島	5,257,900	16,069,615	2,000,000	0	50,000	1,097,954	551,461	40,000	1,362,000	26,428,930
関 東	東 京	18,102,023	8,749,270	13,122,448	8,112,316	240,000	2,171,860	99,555	506,250	1,390,719	52,494,441
	茨 城	2,741,000	1,384,087	1,854,000	0	0	1,000,000	300,000	0	50,000	7,329,087
	栃 木	1,966,200	1,795,402	600,000	0	0	842,700	0	15,000	100,000	5,319,302
	群 馬	1,112,866	798,029	40,000	0	0	275,000	3,125	0	259,830	2,488,850
	埼 玉	9,585,765	3,258,344	2,288,954	0	111,000	1,786,828	110,000	45,250,000	30,000	62,420,891
	千 葉	2,714,500	739,989	405,000	512,000	0	5,147,790	500,000	1,528,000	80,000	11,627,279
	神 奈 川	44,924,587	8,719,571	2,609,806	450,694	468,400	2,400,820	435,000	30,000	729,382	60,768,260
	新 潟	3,859,000	620,607	0	509,200	0	93,000	10,000	0	0	5,091,807
	山 梨	2,262,030	2,030,680	400,000	0	0	100,000	100,000	30,000	82,131	5,004,841
	長 野	5,521,168	3,725,000	1,740,000	1,777,686	0	2,620,000	10,000	0	0	15,393,854
静 岡	13,616,112	1,605,150	7,756,980	80,000	0	1,678,700	1,040,000	630,000	0	26,406,942	
中 部	富 山	6,063,535	1,681,357	20,000	758,985	113,123	730,000	30,000	20,000	30,000	9,447,000
	石 川	11,938,500	2,810,980	119,500	25,030,000	0	380,000	0	0	0	40,278,980
	福 井	2,326,000	1,691,030	520,000	0	0	1,520,000	0	0	0	6,057,030
	岐 阜	12,120,438	746,508	190,000	0	0	200,000	200,000	0	10,000	13,466,946
	愛 知	20,719,649	3,103,637	1,105,340	219,400	690,000	7,380,492	520,000	300,000	80,000	34,118,518
近 畿	三 重	1,330,000	721,118	6,401,458	4,897,640	100,000	1,720,000	60,000	0	15,539,000	30,769,216
	滋 賀	1,934,600	252,460	868,026	0	0	310,000	200,000	100,000	0	3,665,086
	京 都	6,989,770	8,004,000	1,903,000	12,670	66,000	1,030,000	0	1,230,000	6,988,080	26,223,520
	大 阪	21,881,064	616,572	3,481,580	1,432,223	58,800	26,083,432	1,025,000	0	1,309,201	55,887,872
	兵 庫	7,373,078	2,038,000	1,786,000	10,000	20,000	3,621,606	2,253,000	110,000	304,000	17,515,684
中 国	奈 良	628,000	215,000	200,000	0	10,000	210,000	100,000	0	954,288	2,317,288
	和 歌 山	12,120,959	335,000	600,000	269,917	55,000	22,000	82,000	10,000	166,000	13,660,876
	鳥 取	1,771,080	377,432	2,000	0	110,000	186,000	120,000	0	20,000	2,586,512
	島 根	1,199,283	9,339,553	343,833	0	127,500	10,000	100,000	0	61,500	11,181,669
	岡 山	5,770,475	48,419,718	2,785,195	20,000	0	1,490,000	0	550,000	1,200,000	60,235,388
四 国	広 島	3,440,768	2,772,600	1,420,000	82,275	525,000	5,304,800	6,501,600	2,000,000	1,134,000	23,181,043
	山 口	764,000	980,659	20,000	48,000	0	1,115,000	110,000	0	394,000	3,431,659
	徳 島	0	224,960	5,000	0	0	1,100,000	100,000	20,000	0	1,449,960
	香 川	1,836,991	885,104	1,199,870	605,068	0	500,000	240,000	1,500,000	34,720	6,801,753
	愛 媛	1,242,935	13,037,414	1,449,850	10,018,000	1,133,853	2,937,443	400,000	234,000	4,246,000	34,699,495
九 州	高 知	306,000	17,221,331	25,000	50,000	1,320,000	365,000	0	0	65,000	19,352,331
	福 岡	2,821,766	2,601,504	2,065,549	0	20,000	5,145,600	263,000	0	140,000	13,057,419
	佐 賀	1,156,799	742,499	550,000	20,000	0	423,000	110,000	40,000	188,292	3,230,590
	長 崎	1,222,340	992,091	2,413,499	0	30,000	734,500	415,000	0	340,000	6,147,430
	熊 本	8,580,192	16,402,766	1,822,940	2,396,076	2,019,580	5,166,000	1,087,967	0	0	37,475,521
	大 分	1,993,001	4,853,076	185,000	2,483,441	0	2,039,800	215,000	5,000	654,877	12,429,195
	宮 崎	1,662,713	2,552,044	5,362,780	0	454,810	970,000	329,000	30,000	960,000	12,321,347
	鹿 児 島	909,363	3,942,623	1,091,051	54,027	3,585,206	1,230,000	440,000	0	134,000	11,386,270
小 計	282,663,460	222,865,270	86,701,604	66,153,679	14,667,272	102,677,653	20,369,958	54,711,250	51,575,635	902,385,781	
全 日 遊 連		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P O S C		16,540,000	0	17,400,000	0	0	0	0	0	0	33,940,000
合 計		299,203,460	222,865,270	104,101,604	66,153,679	14,667,272	102,677,653	20,369,958	54,711,250	51,575,635	936,325,781

全日遊連 2025年12月31日

都道府県別 社会貢献・社会還元件数集計表(総件数)

(総件数)

都道府県 (組合)	拠出内容(件数)									合 計	
	社会福祉	地域貢献	青少年育成	災害救済	交 通	防 犯	暴 排	学術文化	その他		
北 海 道	64	81	0	2	3	4	4	1	2	161	
東 北	青 森	60	97	11	2	4	18	3	5	6	206
	岩 手	101	99	11	4	1	28	10	1	36	291
	宮 城	415	51	7	14	4	6	5	0	7	509
	秋 田	64	33	0	1	3	23	2	0	6	132
	山 形	32	33	8	1	0	8	1	0	5	88
	福 島	106	79	2	0	5	16	5	2	9	224
東 京	129	81	26	15	7	37	2	5	21	323	
関 東	茨 城	11	41	5	0	0	1	1	0	1	60
	栃 木	8	32	2	0	0	1	0	1	1	45
	群 馬	9	14	2	0	0	1	1	0	15	42
	埼 玉	60	64	97	0	4	15	2	2	1	245
	千 葉	34	34	5	5	0	3	1	9	1	92
	神 奈 川	100	79	20	6	7	35	14	1	9	271
	新 潟	62	30	0	2	0	6	1	0	0	101
	山 梨	15	48	14	0	0	1	1	1	3	83
	長 野	56	47	8	4	0	5	1	0	0	121
静 岡	55	52	32	2	0	5	3	2	0	151	
中 部	富 山	81	35	2	9	4	13	1	2	1	148
	石 川	44	78	3	2	0	6	0	0	0	133
	福 井	62	62	4	0	0	5	0	0	0	133
	岐 阜	130	40	2	0	0	1	1	0	1	175
	愛 知	91	86	11	6	7	37	4	2	2	246
	三 重	51	20	18	1	1	11	1	0	4	107
近 畿	滋 賀	19	11	34	0	0	2	1	1	0	68
	京 都	25	35	7	1	1	2	0	4	21	96
	大 阪	89	27	11	33	3	46	2	0	42	253
	兵 庫	118	26	14	1	2	49	15	2	3	230
	奈 良	15	3	1	0	1	2	1	0	37	60
	和 歌 山	421	11	3	4	2	2	3	1	49	496
中 国	鳥 取	23	2	1	0	2	4	3	0	2	37
	島 根	31	37	16	0	2	1	1	0	7	95
	岡 山	26	127	6	1	0	2	0	1	2	165
	広 島	42	50	23	4	3	22	21	1	13	179
四 国	山 口	7	14	1	2	0	9	2	0	9	44
	徳 島	0	16	1	0	0	2	1	1	0	21
	香 川	32	43	7	2	0	1	3	2	1	91
	愛 媛	31	132	27	4	6	17	2	8	5	232
九 州	高 知	15	39	3	1	1	4	0	0	3	66
	福 岡	105	89	43	0	1	30	2	0	3	273
	佐 賀	34	27	8	2	0	6	2	2	5	86
	長 崎	100	87	35	0	1	11	6	0	3	243
	熊 本	167	236	10	16	5	21	3	0	0	458
	大 分	31	78	7	7	0	15	8	1	8	155
	宮 崎	16	66	48	0	2	3	2	2	12	151
	鹿 児 島	50	101	34	4	16	10	5	0	6	226
	沖 縄	189	164	483	2	1	44	4	7	43	937
小 計	3,426	2,737	1,113	160	99	591	151	67	405	8,749	
全 日 遊 連	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
P O S C	10	0	13	0	0	0	0	0	0	23	
合 計	3,436	2,737	1,126	160	99	591	151	67	405	8,772	

全日遊連 2025年12月31日

都道府県別 社会貢献・社会還元金集計表(現金明細)

(現金明細)

都道府県 (組合)		拠出内容(金額)									合 計
		社会福祉	地域貢献	青少年育成	災害救済	交 通	防 犯	暴 排	学術文化	その他	
北海道		6,961,070	5,163,800	0	4,000,000	50,000	54,440	72,100	200,000	12,000	16,513,410
東北	青 森	47,000	879,000	416,288	133,110	235,000	1,020,943	225,000	40,000	655,460	3,651,801
	岩 手	829,192	1,077,000	212,500	1,778,959	50,000	2,217,500	616,000	10,000	549,285	7,340,436
	宮 城	2,737,005	280,000	30,000	157,992	2,800,000	4,490,000	1,040,000	0	859,000	12,393,997
	秋 田	40,000	2,914,000	0	30,000	0	20,000	70,000	0	60,000	3,134,000
	山 形	70,000	175,000	30,000	20,000	0	255,000	10,000	0	57,600	617,600
	福 島	673,900	15,734,000	2,000,000	0	50,000	1,097,954	551,461	40,000	1,362,000	21,509,315
東 京		13,941,330	4,639,146	13,122,448	8,112,316	140,000	1,225,880	50,000	506,250	898,000	42,635,370
関東	茨 城	2,691,000	717,000	1,550,000	0	0	1,000,000	300,000	0	50,000	6,308,000
	栃 木	1,550,000	1,270,000	600,000	0	0	0	0	15,000	100,000	3,535,000
	群 馬	981,566	194,706	40,000	0	0	0	3,125	0	255,000	1,474,397
	埼 玉	9,146,815	2,406,455	50,000	0	111,000	320,000	110,000	45,250,000	30,000	57,424,270
	千 葉	2,656,000	206,200	355,000	12,000	0	0	500,000	1,528,000	80,000	5,337,200
	神 奈 川	43,703,470	6,222,800	1,896,000	450,694	468,400	1,297,880	435,000	30,000	454,000	54,958,244
	新 潟	3,050,000	213,000	0	509,200	0	93,000	10,000	0	0	3,875,200
	山 梨	1,982,287	1,986,500	160,000	0	0	100,000	100,000	30,000	82,131	4,440,918
	長 野	4,413,073	3,455,000	1,740,000	1,777,686	0	2,620,000	10,000	0	0	14,015,759
	静 岡	13,269,172	1,424,400	6,873,000	80,000	0	1,330,000	1,040,000	630,000	0	24,646,572
中部	富 山	33,749	1,169,000	20,000	758,985	85,000	730,000	30,000	20,000	30,000	2,876,734
	石 川	90,000	302,000	112,000	25,000,000	0	380,000	0	0	0	25,884,000
	福 井	0	485,000	520,000	0	0	1,520,000	0	0	0	2,525,000
	岐 阜	2,634,500	438,000	190,000	0	0	200,000	200,000	0	0	3,662,500
	愛 知	7,207,009	2,695,868	840,000	160,000	690,000	2,059,000	520,000	300,000	80,000	14,551,877
近畿	三 重	0	560,000	6,161,458	0	100,000	1,720,000	60,000	0	15,539,000	24,140,458
	滋 賀	345,000	20,000	430,000	0	0	310,000	200,000	100,000	0	1,405,000
	京 都	4,684,000	2,004,000	1,753,000	12,670	66,000	1,030,000	0	1,230,000	6,841,150	17,620,820
	大 阪	19,270,816	358,000	3,481,580	1,357,013	58,800	8,179,460	1,025,000	0	1,145,594	34,876,263
	兵 庫	6,370,288	1,978,000	1,310,000	10,000	20,000	2,904,000	2,253,000	110,000	304,000	15,259,288
中国	奈 良	403,000	215,000	200,000	0	10,000	210,000	100,000	0	954,288	2,092,288
	和 歌 山	4,274,115	335,000	400,000	69,917	55,000	22,000	82,000	10,000	34,000	5,282,032
	鳥 取	1,515,640	0	2,000	0	110,000	186,000	120,000	0	20,000	1,953,640
	島 根	958,670	9,276,000	93,000	0	127,500	10,000	100,000	0	61,500	10,626,670
	岡 山	4,160,053	46,385,686	2,785,195	20,000	0	500,000	0	550,000	1,200,000	55,600,934
四国	広 島	2,783,268	2,100,800	1,420,000	82,275	525,000	3,247,000	6,501,600	2,000,000	1,134,000	19,793,943
	山 口	577,000	608,000	20,000	48,000	0	1,115,000	110,000	0	394,000	2,872,000
	徳 島	0	131,000	5,000	0	0	1,100,000	100,000	20,000		1,356,000
	香 川	1,080,000	759,000	0	5,068	0	500,000	240,000	1,500,000	34,720	4,118,788
	愛 媛	54,000	9,763,740	835,880	10,018,000	1,034,220	2,538,880	400,000	234,000	4,246,000	29,124,720
九州	高 知	71,000	5,221,331	25,000	50,000	0	365,000	0	0	65,000	5,797,331
	福 岡	1,404,256	1,380,000	1,518,749	0	20,000	4,628,000	263,000	0	140,000	9,354,005
	佐 賀	305,000	380,041	550,000	20,000	0	379,000	110,000	40,000	188,292	1,972,333
	長 崎	269,521	348,000	2,393,499	0	30,000	734,500	415,000	0	340,000	4,530,520
	熊 本	3,324,964	11,538,845	1,681,700	1,576,076	0	2,871,000	1,010,000	0	0	22,002,585
	大 分	462,667	1,392,000	135,000	2,483,441	0	893,600	215,000	5,000	210,000	5,796,708
	宮 崎	103,000	1,783,400	2,916,391	0	2,358	720,000	329,000	30,000	960,000	6,844,149
	鹿 児 島	496,400	3,745,373	474,497	54,027	3,547,806	1,118,000	440,000	0	134,000	10,010,103
沖 縄		4,281,805	8,797,925	4,284,262	61,000	10,000	983,594	276,150	283,000	3,848,275	22,826,011
小 計		175,902,601	163,129,016	63,633,447	58,848,429	10,396,084	58,296,631	20,242,436	54,711,250	43,408,295	648,568,189
全 日 遊 連		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P O S C		16,540,000	0	17,400,000	0	0	0	0	0	0	33,940,000
合 計		192,442,601	163,129,016	81,033,447	58,848,429	10,396,084	58,296,631	20,242,436	54,711,250	43,408,295	682,508,189

全日遊連 2025年12月31日

2025年 社会貢献・社会還元の実施状況調査結果総評

2025年1月～12月 総額9億3,632万円の拠出

報告：一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構 事務局

地域社会との絆を深化、社会貢献活動の質的充実を図る1年に

2025年1月から12月までの1年間に展開された社会貢献活動を対象に、都道府県組合、各支部組合及び各組合員ホールからの報告をもとに、社会貢献・社会還元の実施状況調査の結果を取りまとめた。

拠出金総額は、約9億3,633万円(前年比67.5%)、件数は8,772件(同91.8%)となった。内訳は、現金が約6億8,251万円(同62.0%)、物品(現金換算)が約2億5,382万円(同89.1%)である。前年比で総額・件数ともに減少しているが、これは前年に発生した能登半島地震等への大規模な災害救済支援の反動による影響が大きく、物品寄贈に関しては前年に近い水準を維持している。

拠出元別の金額は、総額で、都道府県組合が約2億8,241万円、支部組合が約1億0,293万円、組合員ホールが約5億1,705万円となった。前年比では、都道府県が約3,988万円減、支部が約834万円減、組合員ホールが約3億9,336万円減であった。

拠出内容別の金額および構成比は、その他を除くと多い順で、①社会福祉関連約2億9,920万円(構成比32.0%)、②地域貢献関連 約2億2,286万円(同23.8%)、③青少年育成関連約1億0,410万円(同11.1%)、④防犯関連約1億0,268万円(同11.0%)、⑤災害救済関連約6,615万円(同7.1%)、⑥学術・文化関連約5,471万円(同5.8%)、⑦暴排関連約2,037万円(同2.2%)、⑧交通安全関連約1,467万円(同1.6%)となった。

拠出金の前年比の特徴は「学術・文化関連」が約3,310万円増(前年比253.2%)と大幅に増加したほか、「交通安全関連」も約145万円増(同110.1%)と伸びを見せている。一方で、前年に突出していた「災害救済関連」は約3億4,211万円の減(同16.2%)と落ち着いた様子を見せている。

寄贈先の特徴としては、金額で「福祉施設(社会福祉協議会、児童・養護老人等)」が約2億0,594万円と全体の22.0%を占め、件数でも3,819件(全体の約43.5%)と最多になった。これはお菓子や食料品といった物品寄贈の多さと連動しており、地域福祉への草の根支援が業界の社会貢献の柱として完全に定着していることを示している。

また、「協賛(祭り、イベント、スポーツ、寺社仏閣)」が約1億7,188万円(構成比18.4%)とこれに次いでおり、地域コミュニティの再活性化を支える活動が活発化している。これに「自治体」への拠出(約1億2,130万円)を加えると、地域社会のインフラや行事を直接的に支える拠出が大きな割合を占めている。

一方、物品寄贈の内容では、車両(16台)や防犯カメラ、車いすといった高額な実務用品の寄贈が継続される一方で、内容別では「学術・文化関連」が前年比253.2%と突出して伸びている。これは特定の災害支援に集中した前年に対し、支援の対象が文化活動や教育支援など、より多角的・教育的な分野へと広がっている傾向が見て取れる。

このほか、業界特有の課題である「依存問題」に関連する団

体等へも約2,936万円の拠出が行われており、社会的な責任を果たす姿勢が具体的な数字として表れた1年であった。

寄贈された物品の内容で特徴的なことは、福祉や防犯を目的とした車両が3,503万円相当(16台) 寄贈され、別途車両購入費として1,671万円の現金寄贈があり、合わせて5,174万円相当となった。車いすは224万円相当(63台)に加え、28万円の現金寄贈があり計252万円相当、防犯カメラは242万円相当(7台)と23万円の現金寄贈で計265万円相当となっている。また、お菓子(約7,886万円)や食料品・飲料水(約4,415万円)といった、地域に根ざした身近な物品寄贈も高い件数を維持している。

ボランティア活動等の社会貢献活動では、各都道府県組合から2,684件(前年3,016件)の具体的事例報告が寄せられた。総件数は前年を下回ったものの、活動の内容には特徴的な推移が見られる。

類型別では、「清掃活動」「献血活動」「パトロール活動」といった「奉仕型」の貢献活動が1,731件に上り、全体の64.5%を占めている。これは前年の60.1%から4.4ポイント増加しており、地域に根ざした奉仕活動が活動の主軸としてさらに強化されている。

項目別の特徴としては、「清掃ボランティア活動」が1,286件(前年1,245件)と件数を伸ばし、依然として最も高い比率を維持している。また、「祭り・イベントへの参加・協力」が458件(同376件)、「特殊詐欺対策活動」が36件(同15件)と大幅に増加した。特に特殊詐欺対策については前年の240%に達しており、警察等と連携した防犯活動への関心の高まりが伺える。

一方で、前年に大幅な伸びを見せた「子ども食堂、フードバンク支援活動」は245件(前年485件)と半減した。前年の能登半島地震等の影響で増加した「災害関連(駐車場提供や協定締結等)」も19件(同58件)、「パトロール活動」も123件(同210件)とそれぞれ減少した。

総じて、2025年は災害対応などの緊急的な活動から、清掃や地域イベントへの参加といった日常的・継続的なコミュニティ活動へと、活動の重点が再びシフトした1年であったといえる。

今後の課題と展望

今年の結果からは、前年の大規模災害支援による反動減は見られるものの、社会福祉や地域貢献といった基幹的な活動が継続して行われていることが確認された。特に学術・文化関連への拠出が倍増しており、支援の幅がより多角化している傾向にある。

近年、恒常化している自然災害への備えとして、各地域での車両や防犯用品、防災用具の寄贈は、地域の安全網を支える重要な役割を果たしている。また、お菓子や食料品の寄贈件数の多さは、子ども食堂や福祉施設等を通じた地域住民との直接的な接点として、業界の社会的な存在意義を示すものとなっている。

今後は、これらの金銭・物品の支援に加え、現在取りまとめているボランティア活動等の「人」を通じた貢献をさらに可視化し、地域社会との共生をより確かなものにしていくことが期待される。

北海道 北海道遊技事業協同組合 合田康広 理事長

北海道遊協

- 公益社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンターの活動を支援するため、令和元年から毎年行っている寄付活動について、北海道警察本部長、同カウンセリングセンター理事長の連名による感謝状を受領【写真①】

支部

- 函館支部管内の有志ホール（12ホール）が「函館方面ばちんこ・パチスロ愛の玉事業会」を結成して資金を出し、管内の児童養護施設など4カ所に5件（39万円）の寄付を行い、当該施設から感謝状を受けるなど業界のイメージ向上に寄与（函館支部）【写真②】

ホール

- カムチャツカ沖地震による津波警報や青森県東方沖地震発生時の津波注意報発令時に、立体駐車場の迅速な開放と従業員による避難誘導や地域の避難所への菓子類の差し入れなど災害時対策を実施。また、冬期間の大雪対策のため駐車場の一部を地域の排雪場所として提供するなど、自然災害等発生時における地域支援を積極的に推進し、地域住民の安心安全に大きく貢献（コアシティ苫小牧）
- 札幌医科大学附属病院に対し、長年にわたり医療機器などの寄付を行っており、令和7年度は静脈可視化装置など5件（250万円相当）の寄付を行い、同院から感謝状を受領（株式会社新和）
- 宮城県大船渡市において発生した大規模森林火災を見舞うため、大船渡市に対し義援金として400万円を寄付（株式会社合田観光商事）



寄付活動に対し感謝状を受領【写真①】



寄付金の授与式【写真②】

青森県 青森県遊技業協同組合 若林浩司 理事長

県遊協

- 青森地区防犯協会に防犯カメラ設置事業費を寄贈【写真①】
- 青森県防犯協会連合会に30万円寄付
- 青森県交通安全母の会連合会、青森県暴力追放県民センター、あおもり被害者支援センターに各20万円寄付

支部

- 五戸地区防犯協会に特殊詐欺被害防止の「横断幕」寄贈（八戸支部）【写真②】
- 農産物の盗難防止のためトレイルカメラとセンサーライト複数台を寄贈（西北五支部）

ホール

- 児童福祉施設等にお菓子を寄贈（組合各ホール）
- ホール周辺や地域清掃活動を実施（組合各ホール）



青森地区防犯協会から感謝状を受領【写真①】



横断幕を寄贈【写真②】

岩手県 岩手県遊技業協同組合 工藤 嘉 理事長

県遊協

- 青年部が主催し、県内11カ所のホール駐車場において、合計11回の献血活動を実施22回目の開催で延べ4,721が献血に協力
- 年賀賞品用のヤクルト商品への年賀シール貼付作業を授産施設4カ所に依頼し、その作業報償費と併せて寄付金を交付して施設へ支援【写真①】

支部

- 一関地区青年部員らがサンタクロースに扮して児童養護施設を訪問し、ケーキ等お菓子をプレゼントするなど、クリスマス慰問を実施（一関地区遊技場組合）【写真②】
- 盛岡遊技場協同組合青年部は、子ども食堂2カ所への支援活動として、米やパスタ等の食品を贈呈（盛岡支部）

ホール

- ホールスタッフが奥州市学校支援地域本部事業で実施している学校支援ボランティアに参加し、校外学習時の引率補助等を実施（アズ水沢）
- 第4回奥州花火大会（8月23日開催）の翌日、祭典終了後の清掃ボランティアにホールスタッフ5人が参加（マルハン水沢店）



支援金の贈呈式【写真①】



児童養護施設にクリスマス慰問を実施【写真②】

宮城県 宮城県遊技業協同組合 新井清浩 理事長

県遊協

- 日本赤十字社宮城県支部や公益社団法人宮城県防犯協会連合会など社会貢献を行っている14団体に対し総額335万円を寄付

ホール

- 地域の各種まつりに協賛（株式会社新井商事）
- 老人ホームなどでパチンコ大会を開催したり、各種イベントに社員とともに参加（株式会社マルタマ）【写真①】
- 石巻市総合防災訓練に参加し、ホールを避難所として開設（パラディソ石巻元倉店）【写真②】



老人ホームでパチンコ大会を開催【写真①】



防災訓練に参加し、ホールを避難所として開設【写真②】

秋田県 秋田県遊技業協同組合 津村容一 理事長

県遊協

- にかほ市及び社会福祉施設2施設の計3ヵ所に対し、車いす計6台を寄贈。この活動は平成16年から継続し、これまで計206台の車椅子を贈呈 [写真①]
- 県内の子ども食堂や学習支援している団体へ40万円寄付

支部

- 秋田市内の母子世帯支援施設3ヵ所に対して、図書カードや食料品、生活雑貨類、食品類等の物資を寄贈（秋田中央遊技業協同組合）
- 鹿角市立小学校及び小坂町立小学校の新入学児童167人全員分と予備を含めた170点の防犯ブザーを寄贈（鹿角地区遊技場組合）
- 北秋田市立、上小阿仁村立小学校及び義務教育学校の8校の新入学児童全員に対し140点の防犯ブザーを寄贈（北秋田地区遊技場組合）

ホール

- 青少年の健全育成を図るためスポーツ少年団への協賛金及び寄付金計9件、約113万円を寄付（chaos大館店）
- 県社会福祉協議会へ子どもの居場所づくりとして、県内の子ども食堂や学習支援をしている団体へ40万円寄付



車いすの贈呈式 [写真①]

山形県 山形県遊技業協同組合 井上智之 理事長

県遊協

- 豪雨災害被災者へ生活用品のボックスティッシュ5パック、150個を寄贈。また、戸沢村社会福祉協議会の活動資金として5万円を寄付 [写真①]
- 組合員ホールに協力を呼びかけ、パチンコゲーム機の提供を受け、障がい者支援施設に寄贈。また、施設活動支援として5万円を寄付
- 高校生等を対象に、薬物乱用防止と併せて闇バイト犯罪防止、パチンコ依存防止を記した蛍光ペンを1,000本作成し配布 [写真②]

ホール

- 近隣の6ヵ所の児童養護施設や学童保育へお菓子を寄贈（エスタディオ三川、アイランド米沢店、メガゼスト666）
- 県内5ヵ所の児童養護施設の子どもたちにボウリング場でボウリング2ゲームと食事をセットにしてクリスマスプレゼントとして招待（株式会社マルキ）
- 山形市のコミュニティサイクル「ベニチャリ」に電動自転車2台を寄贈。また、専用駐輪場を運営する「山形ファミリーボウル」に設置（株式会社マルキ）



豪雨災害被災者への生活用品の贈呈式 [写真①]



配布した蛍光ペン [写真②]

福島県 福島県遊技業協同組合連合会 諸田英模 理事長

県遊協

- ふくしま被害者支援センターに10万円を寄付 [写真①]
- 県内の児童養護施設8ヵ所に児童図書約400冊、カップ麺32ケースを寄贈 [写真②]

ホール

- 社会福祉法人や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）
- 郡山市に対し奨学資金として200万円を寄付（つばめグループ）
- 須賀川市釈迦堂川花火大会当日に店舗を臨時休業し、全敷地を無料開放。地域住民の花火観覧場所として提供。また、敷地内で「ワクワクフェスティバル」を開催し。多彩な催しを通じて地域交流を実施（ニラク須賀川店）
- 「よいいだキッチンクリスマス会」にて、ゲームブースを出店してお菓子の配布や、着ぐるみマスコットとの記念撮影を行いイベントを盛り上げた（マルハン福島店）



ふくしま被害者支援センターへの寄付金贈呈式 [写真①]



県内の児童養護施設へ児童図書を贈呈 [写真②]

東京都 東京都遊技業協同組合 阿部恭久 理事長

都遊協

- 重症心身障がい児（者）施設「島田療育センター」の「わいわい祭り」に都遊協関係者ら約80名がボランティアとして参加し運営をサポート [写真①]
- ぱちんこ依存問題相談機関「認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク」に500万円、ギャンブルなどに問題を抱える人の回復支援施設「認定NPO法人ワンダーポート」に300万円を寄付 [写真②]

支部

- 島田療育センター、日本肢体不自由児協会、アイメイト協会の3団体に寄付（巣鴨遊技場組合）
- 福祉事業所の利用者らを招待する「第29回ふれ愛ボウリング大会」を開催（八王子遊技場組合）

ホール

- 社会福祉法人や児童福祉施設にお菓子を寄贈



都遊協関係者がボランティアとして参加した「わいわい祭り」 [写真①]



寄付金の贈呈式 [写真②]

茨城県 茨城県遊技業協同組合 平文暉朗 理事長

■県遊協

- 青少年育成に寄与するため選抜中学校野球大会に130万円寄付
- 県内の児童養護施設（19施設）に新米570kgを寄贈【写真①】
- 茨城県防犯協会に100万円寄付【写真②】

■支部

- 水戸市社会福祉協議会、茨城町社会福祉協議会に寄付（水戸組合）
- 茨城県被害者支援センターに寄付（日立組合）

■ホール

- 児童養護施設や社会福祉法人にお菓子を寄贈（組合各ホール）



児童養護施設へ新米を寄贈【写真①】



茨城県防犯協会への寄付金贈呈式【写真②】

群馬県 群馬県遊技業協同組合 森山秀夫 理事長

■県遊協

- 上毛新聞社主催「愛の募金」にチャリティゴルフ大会の浄財と当組合からの寄付金を合わせて、36万5千円を寄付【写真①】
- 児童虐待防止対策に50万円を寄付【写真②】
- 年間を通じて県警生活安全課の業務運営に多大な貢献をしたことで感謝状を受領

■支部

- 館林警察署管内3市町（館林市・板倉町・明和町）の新入学児童及び中学校へ防犯ブザーを20年にわたり寄贈（館林遊技業組合）
- 桐生警察署管内職域防犯協力が主催する防犯活動に協力するため、夜間の地域パトロールに参加（桐生みどり遊技場組合）
- JR前橋駅周辺のパトロールを実施（前橋遊技場組合）

■ホール

- 北代田町自治会に地域貢献として自治会費を寄贈（D'ステーション前橋若宮店）
- エコキャップ推進協会に地域貢献としてエコキャップ8kgを回収（PSブランド伊勢崎店）
- 「ハチドリ」のひとしずく運動」や温暖化防止廃油リサイクル運動に参加（株式会社アープ）



寄付金の贈呈式【写真①】



寄付金の贈呈式【写真②】

栃木県 栃木県遊技業協同組合 金 淳次 理事長

■県遊協

- 栃木県地域福祉基金に100万円寄付【写真①】
- 県内の高齢者福祉施設等に、介護用車いす10台を寄贈

■支部

- 宇都宮市社会福祉基金に寄付（宇都宮支部）【写真②】

■ホール

- 社会福祉法人や児童福祉施設にお菓子を寄贈（ダイエー氏家店）



県知事への寄付金贈呈式【写真①】



宇都宮市長への寄付金贈呈式【写真②】

埼玉県 埼玉県遊技業協同組合 趙 顕洙 理事長

■県遊協

- 子どもの健全育成支援活動の一環として、県内で活動する延べ83カ所の子ども食堂に対して、各地区組合と連携して支援金等の寄付・寄贈。また、児童養護施設に熱中症対策として、アイソトニック飲料40箱を寄贈
- 日本赤十字埼玉県支部に対して、ヤクルト等との協賛による社会福祉協力キャンペーンを実施し、その収益の一部から救急法訓練人形、幼児安全法訓練人形及び訓練用AED 総額160万円相当を寄贈【写真①】
- 公益社団法人埼玉県防犯協会連合会及び公益財団法人埼玉県暴力追放・薬物乱用防止センターに対して、県内の犯罪被害防止及び暴力団排除のための防犯活動等を支援する活動資金を支援
- 県警察本部生活安全総務課に対して、防犯啓発用オリジナルストラップ3,000個を寄贈。また、各警察署に対しては、特殊詐欺被害防止をはじめとする防犯啓発物品を寄贈

■支部

- ヤクルト球団の協力のもと、さいたま市、上尾市、桶川市及び伊奈町のスポーツ少年団44チーム（360名）を招き、少年野球教室を開催（岩槻組合、上尾組合、大宮組合）【写真②】
- 岩槻警察署、東入間警察署、浦和警察署、川口警察署及び武南警察署に対して、特殊詐欺被害防止をはじめとする防犯啓発物品を寄贈（岩槻組合、東入間組合、浦和組合、川口組合、武南組合）

■ホール

- 子ども食堂や社会福祉協議会等に対して、組合各ホールが定期的にお菓子、ジュース等を寄贈



救急法訓練人形やAED等、総額160万円相当を寄贈【写真①】



少年野球教室を開催【写真②】

千葉県 千葉県パチンコ・パチスロ店協同組合 星山聖達 理事長

■県遊協

- 地域振興支援のため、県内3市に防犯パトロールカー各1台を寄贈【写真①】
- 児童福祉施設、こども食堂、こども病院等7団体に対し、合計150万円を寄付したほか、文化支援事業として7文化芸能団体に対し、合計150万円を寄付【写真②】

■支部

- 防災啓発資料として、防災ハンドブック2,000部、貸出用DVD(地震対策・被災者の証言)、貸出用防災学習かるたを寄贈(船橋遊技場組合)

■ホール

- 企業及び企業傘下のホールが、通年、児童福祉団体、地域の小児科医院、祭礼、消防団体等に寄贈(大和商事株式会社、ニュー後樂園、アスワンQ、アスワンP)
- 児童福祉施設晴香園のクリスマスパーティーに菓子を寄贈するとともに、従業員がホールキャラクターのぬいぐるみを利用したゲームを行い、子どもたちを楽しませた(マルハンメガシティ柏)
- 近隣町内会の餅つき大会に従業員がボランティアで参加し、同大会の開催、進行を支援(マルハンメガシティ柏)



防犯パトロールカー寄贈式を伝えるポスター【写真①】



児童福祉施設、こども食堂等への寄付を伝えるポスター【写真②】

新潟県 新潟県遊技業協同組合 朴 永雅 理事長

■県遊協

- 新潟県共同募金会に対し障がい者福祉施設移送用車両購入費として300万円寄付【写真①】

■支部

- 子ども安全パトロールの実施(上越遊技業組合)

■ホール

- フードバンクや養護老人福祉施設にお菓子を寄贈(組合各ホール)



障がい者福祉施設移送用車両購入費の贈呈式【写真①】

神奈川県 神奈川県遊技場協同組合 伊坂重憲 理事長

■県遊協

- 日本赤十字社神奈川県支部に災害救援車1台を寄贈。昭和60年から40年にわたり日本赤十字社の活動を継続して支援【写真①】
- 県内社会福祉施設の5施設に計5台の福祉車両を寄贈。これまでの寄贈台数は320台、金額に換算して9億円を超える
- 東京2025デフリンピック応援イベント「東京2025デフリンピックを藤沢から応援しよう」に協賛金50万円を寄付

■支部

- 保土ケ谷警察署に防犯パトロールのための電動自転車2台を寄贈(横浜遊技場組合保土ケ谷支部)
- 「厚木市・愛川町パチンコ・パチスロファン感謝デー」の開催に伴い、市内全38ヵ所の児童館に各30冊の書籍をクリスマスに寄贈(厚木市遊技場組合)【写真②】

■ホール

- 地域のこども食堂にお米などの食料品を寄贈。(株式会社ジャンニュアルファ・県内7店舗)
- 地域の子ども食堂、福祉施設等にお菓子などの食料品、ギフトカード等を寄贈。(株式会社五輪・県内4店舗)



災害救援車の寄贈式【写真①】



書籍の寄贈式【写真②】

山梨県 山梨県遊技業協同組合 星野 謙 理事長

■県遊協

- 山梨県社会福祉協議会へトイレットペーパーやレトルト食品等を寄贈【写真①】
- 山梨県更生保護協会、山梨県防犯協会、山梨県暴力追放運動推進センター等に活動資金を寄付
- 山梨県肢体不自由児協会にタオル50本を寄贈

■ホール

- ホール周辺の清掃活動を実施(組合各ホール)
- 社会福祉法人やNPO法人、保育所にお菓子を寄贈(組合各ホール)



山梨県社会福祉協議会への寄贈式【写真①】

長野県 長野県遊技業協同組合 矢崎真治 理事長

■県遊協

- 令和6年度社会福祉貢献事業寄付金贈呈式を行い、9団体に対し160万円の寄付金を贈呈【写真①】
- 長野県知事に青少年健全育成のため100万円、高齢者・障がい者福祉のため50万円を寄付

■支部

- 木曽町ジュニアスキークラブへ、ジュニア選手の活動支援と健全育成のため、10万円を寄付（木曽遊技場組合）
- 長野南地区青少年剣道育成会が主催する剣道大会に10万円の協賛を行い、青少年のスポーツ支援と健全育成に貢献（長野遊技場組合）
- 日本赤十字社が行う献血活動に協力し、4月と10月に組合員ホルの駐車場で献血行い、延べ96人が献血（長野遊技場組合）【写真②】

■ホール

- 特別養護老人ホームの入所者約40人を招き、無料でパチンコ体験を実施（遊パークパチンコゾーン）
- お菓子（9万円相当）を飯田市社会福祉協議会のフードドライブに寄贈（共和観光株式会社）
- 年間を通じ毎月第3土曜日の子ども食堂に社員を派遣し、運営に協力（株式会社サンエイ）



寄付金の贈呈式【写真①】



ホール駐車場で献血活動を実施【写真②】

富山県 富山県遊技業協同組合 澤田修宏 理事長

■県遊協

- 北日本新聞納涼花火大会後、会場河川敷で清掃活動を実施【写真①】
- 児童養護施設で行われたクリスマス会で、青年部会員が、サンタクロースやトナカイなどに扮し園児にプレゼント【写真②】

■支部

- 富山中央、富山南、富山西防犯協会と高岡防犯協会に賛助金を寄付（富山市・呉西地区遊技業防犯組合）
- 中新川地区防犯協会に賛助金を預託（中新川地区遊技業組合）

■ホール

- 富山県内にある児童福祉施設等にお菓子を寄贈（株式会社ノースランド、クアトロブーム株式会社）



花火大会開催後に会場で清掃活動を実施【写真①】



児童養護施設のクリスマス会に参加し園児にプレゼント【写真②】

石川県 石川県遊技業協同組合 玉川昌範 理事長

■県遊協

- 「地域にいいことプロジェクト」として児童福祉施設や子ども食堂等にヤクルト商品等を寄贈【写真①】
- 石川県防犯協会、石川県スポーツ協会、石川県被害者サポートセンターに賛助金を寄付

■支部

- 金沢中、金沢東、金沢西防犯協会及び小松市防犯協会に賛助金を寄付（金沢支部、小松支部）
- 金沢市防火協議会に賛助金を寄付（金沢支部）

■ホール

- 社会福祉施設、保育園、児童福祉施設等に食料品、お菓子等を寄贈し、感謝状を受領（DSGグループ、クアトロブーム金沢・鹿島、KEIZラパーク金沢店）【写真②】
- 能登半島地震、豪雨災害の土砂撤去に係る費用補填のため、石川県災害ボランティアセンターに義援金を寄付（DSGグループ）【写真②】
- 海岸や河口の清掃活動に参加（USAグループ、DSGグループ）



児童福祉施設や子ども食堂への寄贈式【写真①】



県知事から感謝状を受領【写真②】

静岡県 静岡県遊技業協同組合 飯塚邦晴 理事長

■県遊協

- 静岡県暴力追放運動推進センターと静岡県防犯協会連合会に各100万円を寄付【写真①】
- 静岡県教育委員会に対し教育振興・人材育成支援のため300万円を寄付
- 児童福祉施設に対し児童書やお米を寄贈【写真②】

■支部

- 支部内3市2町の社会福祉協議会に合わせて50万円を寄付（沼津駿東支部）
- 焼津地区防犯協会に特殊詐欺撲滅広報用ベスト250着を寄贈（焼津市遊技業組合）

■ホール

- 静岡県社会福祉協議会に500万円を寄付（株式会社ABC）
- 社会福祉協議会や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）



寄付金の贈呈式【写真①】



児童図書やお米の贈呈式【写真②】

福井県 福井県遊技業協同組合 村田展隆 理事長

県遊協

- 福井県職域防犯連絡協議会、福井県暴力追放センター、福井県被害者支援センターに寄付
- 福井県防犯協会に賛助金 100 万円を預託

ホール

- 社会福祉法人や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）【写真①】
- 三国サンセットビーチの海岸清掃（USA グループ）【写真②】
- 幹線道路の街路樹剪定、街路樹まわり及び歩道の雑草を中心に除去、ゴミ収集、清掃を実施（The Jungle 1000）



越前市社会福祉協議会へのお菓子の寄贈式【写真①】



三国サンセットビーチの清掃活動を実施【写真②】

愛知県 愛知県遊技業協同組合 真城貴仁 理事長

県遊協

- 中日新聞社会事業団に 100 万円を寄付
- 愛知県に 100 万円を寄付【写真①】
- 名古屋市中川署管轄、西署管内、小牧署管内に防犯カメラを寄贈

支部

- 社会福祉法人養楽福祉会等に障がい者福祉活動支援のため約 100 万円を寄付（春日井遊技業組合）
- 豊川防犯協会連合会に防犯ミラーを寄贈（豊川遊技業組合）

ホール

- 社会福祉協議会や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）
- 「学区一斉防犯パトロール」において、従業員で町内防犯パトロールを実施（パーラーキャッスル大金店）



愛知県への寄贈式【写真①】

岐阜県 岐阜県遊技業協同組合 沖 宗也 理事長

県遊協

- 老人介護施設にパチンコ遊技機を持ち込み、パチンコ遊技を体験してもらう活動を長年にわたり継続【写真①】
- 児童福祉施設に電化製品や玩具を寄贈
- 岐阜県防犯協会、岐阜県暴力追放推進センター、ぎふ犯罪被害者支援センターに寄付
- 岐阜県共助会・更生保護法人洗心の家に寄付

支部

- 特殊詐欺防止啓発広報活動に参加。商業施設で声掛け運動を実施（東濃遊技業組合）
- 岐阜地区防犯協会に寄付（岐阜支部）
- 多数の地域行事にボランティアとして参加するとともに、組合員ホールから寄付されたお菓子を地域の子どもたちへ寄贈（東濃遊技業組合）【写真②】

ホール

- 社会福祉協議会や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）



老人介護施設にパチンコ遊技機を持ち込み楽しい時間を提供【写真①】



お菓子を地域の子どもたちへ寄贈【写真②】

三重県 三重県遊技業協同組合 権田 清 理事長

県遊協

- 「〔特非〕フリースクール三重シュール」に活動支援（全額給付型奨学金、入居（家賃）補助金、運営支援金）のため総額約 530 万円を寄付【写真①】
- 三重県防犯協会連合会に防犯・災害啓発物品を寄贈

支部

- 依存問題対策協力金として桑名市に 250 万円を寄付（桑名支部）【写真②】
- 伊勢度会地区生活安全協会に防犯用ホイッスルを寄贈（伊勢・鳥羽支部）
- 地域イベント協賛金として尾鷲港祭り実行委員会に 10 万円を寄付（尾鷲・熊野紀宝支部）

ホール

- 社会福祉協議会や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）



フリースクール活動支援金の贈呈式【写真①】



依存問題対策協力金の寄付金贈呈式【写真②】

滋賀県 滋賀県遊技業協同組合 中村尚秀 理事長

■県遊協

- 公益財団法人おりづる会にお菓子や図書カードを寄贈
- 滋賀県防犯協会、滋賀県暴力団追放推進センター等に支援金を寄贈【写真①】
- チャリティーゴルフ大会を開催し、集まった浄財を公益財団法人関西盲導犬協会に寄付【写真②】

■支部

- 支部内の小学校に児童図書を寄贈（甲賀支部）

■ホール

- 社会福祉法人や児童福祉施設にお菓子を寄贈（県内各ホール）



支援金の贈呈式【写真①】



寄付金の贈呈式【写真②】

大阪府 大阪府遊技業協同組合 平川容志 理事長

■府遊協

- 府下8警察署管内において、支部・組合と協力して警察が主催する行事に参加、大遊協からタレントのタージン氏とMCを派遣して、特殊詐欺被害防止等を訴える「安全・安心まちづくり」のキャンペーンを盛り上げた
- 第39回未来っ子カーニバルを開催、運営に393人のボランティアが参加し、児童養護施設等から約1,888人を招待

■支部

- 「豊中まつり2025」において、企業協賛ブースを借り受け、NPO法人トゥギャザーに提供し、障がい者の自立支援等を目的とした物品販売を実施。組合で作成した団扇等を配布、その他活動全般にかかる経費は組合が負担し、社会貢献活動や障がい者に対する社会福祉活動をPR（豊中組合）【写真①】
- 泉佐野警察署管内で平成15年5月に発生した「吉川友梨ちゃん誘拐事件」について各店舗の大型ビジョンや店内電光掲示板等を活用して情報提供を呼び掛け（貝塚・泉佐野組合）【写真②】

■ホール

- ホール従業員を毎日の朝夕配置して、小中学生の通学と下校時間の見守り活動を継続実施（スーパーハリウッド・高殿）



「豊中まつり2025」で社会貢献活動等をPR【写真①】



各店舗の大型ビジョン等で情報提供を呼びかけ【写真②】

京都府 京都府遊技業協同組合 杉本潤明 理事長

■府遊協

- 社会福祉法人あしぎぬ福祉会「養護老人ホーム満寿園」に車いす利用者送迎用車両を寄贈。平成13年度から毎年府内の自治体や福祉団体に福祉車両の寄贈を行い、今年で25台目【写真①】
- 京遊協を母体とする「公益財団法人京遊連社会福祉基金」から社会福祉に役立ててもらうため、京都府や京都新聞社会福祉事業団、社会福祉団体等27団体に約1,595万円を寄付・助成
- 献血活動の実施（青年部会）。組合員や一般の方、計63名が協力【写真②】

■ホール

- 社会福祉法人や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）



福祉車両の寄贈式【写真①】



青年部会が中心となり実施した献血活動【写真②】

兵庫県 兵庫県パチンコ・パチスロ協同組合 平山龍一 理事長

■県遊協

- ひょうご・ユニバーサルデイに招待を受け、会場において支援金80万円を贈呈後、兵庫県知事からの感謝状を受領【写真①】
- 第29回ラジオ関西まつりに青年部が参加、ジャンボパチンコゲームなどブース出店し、地域住民との交流を図る活動を実施【写真②】
- 第34回暴力団追放兵庫県民大会に平山理事長が招待を受け、支援金180万円を贈呈の上、感謝状を受領

■支部

- 設立後30年を迎える「垂水区暴力団と関係を断つ会」を支援し、暴追活動キャンペーンを積極的にPR（垂水遊技業組合）
- 傘下組合員14ホールにおいて「春の地域安全運動」に協力し、店内にポスターを掲示、店内マイク放送で遊技客に広報活動を実施（加古川遊技業組合）
- 毎月、グループホールから約5名でホール周辺地域の清掃活動を実施（伊丹遊技業組合）

■ホール

- 地域清掃活動の一環としてホール周辺道路等の広範囲にわたりゴミの回収を実施（アミューズ西宮山手幹線通り店）
- ホール周辺のゴミ拾いを週2、3回実施（トップワン姫路町田店）
- 兵庫県警合警察署からの依頼を受け、「警察官を騙る詐欺被害防止」等の対策強化に協力し、デジタルサイネージを活用して動画放映を行い犯罪抑止活動を実施（アミューズ三ノ宮）



支援金の贈呈式【写真①】



青年部会がブースを出店【写真②】

奈良県 奈良県遊技業協同組合 渡辺博治 理事長

県遊協

- 公益財団法人奈良県防犯協会、公益財団法人奈良県暴力団追放県民センター、更生保護法人奈良県更生保護協会等に寄付
- 橿原市共同募金委員会、社会福祉法人奈良県社会福祉協議会フードレスキュー事業等に寄付
- 平成8年から継続して、赤い羽根共同基金に寄付【写真①】

ホール

- 児童福祉施設に対しお菓子を寄贈（組合各ホール）
- ホール周辺や近隣の清掃活動を実施（組合各ホール）



寄付金の贈呈式【写真①】

鳥取県 鳥取県遊技業協同組合 徳田照夫 理事長

県遊協

- 県ファン感謝デーの賞品を優先的に障がい者就労施設に発注し、同事業を支援【写真①】
- 鳥取県障がい者就労事業振興センター、日本赤十字社鳥取県支部、鳥取県暴力追放センター等に寄付
- 新日本海新聞社に交通安全キーホルダーを寄贈

支部

- 被害者支援センター、米子地区防犯協議会等に寄付（米子遊技業防犯組合）

ホール

- 鳥取砂丘の海岸を清掃（組合各ホール）【写真②】
- 児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）



障がい者の就労を支援したファン感謝デーのポスター【写真①】



海岸の清掃活動を実施【写真②】

和歌山県 和歌山県遊技業協同組合 金 貴如 理事長

県遊協

- 和歌山県遊技業協同組合を母体とする社会福祉法人和遊協社会福祉事業協力会では、第35回助成金交付事業として、県内の老人介護施設等28施設に490万円を助成すると共に、一般助成金交付事業では5団体に75万円を助成【写真①②】
- こども食堂や社会福祉協議会、児童福祉施設にお菓子を寄贈

ホール

- 社会福祉協議会や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）
- ホール周辺や近隣の清掃活動を実施（組合各ホール）



事務局長が施設を訪問し助成品を贈呈【写真①②】

島根県 島根県遊技業協同組合 村田勝彦 理事長

県遊協

- 島根県防犯連合会、島根県暴力追放県民センターに運営協力を寄付【写真①】
- 日本赤十字社島根県支部の献血車整備基金に寄付

支部

- 松江水郷祭開催後に会場周辺の清掃活動を実施（松江遊技業防犯協力会）
- 松江遊技業防犯協力会杯学童野球新人大会を開催（松江遊技業防犯協力会）【写真②】

ホール

- ホール周辺や海岸を清掃（組合各ホール）
- 児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）



協力金の贈呈式【写真①】



学童野球大会を開催【写真②】

岡山県 岡山県パチンコ・パチスロ業協同組合 千原行喜 理事長

■県遊協

- 「犯罪の起きにくい社会づくりの推進に関する協定」に基づき岡山県警察にソーラー式屋外用センサーライトを寄贈【写真①】
- 一般社団法人岡山県青少年財団に200万円寄付
- 岡山市社会福祉協議会を通じて岡山市内にある子ども食堂・学習支援団体に児童図書1,200冊を寄贈【写真②】

■支部

- 岡山市に100万円を預託（岡山支部）
- 津山市社会福祉協議会に車いすやチャイルドシート、折りたたみシャワーシート等を寄贈（津山支部）

■ホール

- 社会福祉法人や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）
- 大島自主防災会にAEDを寄贈（サンエイグループ）



防犯資機材の金贈呈式【写真①】



児童図書目録の贈呈式【写真②】

山口県 山口県遊技業協同組合 金 栄作 理事長

■県遊協

- 山口県防犯連合会に対して、防犯活動支援として10万円を寄付
- 社会福祉施設に対し、お年賀景品へのシール貼付を依頼し活動を支援
- フードバンク山口傘下の県内8拠点に食品、菓子を寄贈【写真①】
- 山口県暴力追放運動推進センターに対して、暴力団排除活動支援として9万円を寄付

■支部

- 防府市社会福祉協議会に対して、社会福祉活動支援として50万円を寄付（防府遊技場防犯組合）【写真②】
- 宇部市防犯対策協議会に対して、防犯活動支援として50万円を寄付（宇部市遊技場防犯組合）
- 下関市防犯対策協議会に対して、防犯活動支援として12万円を寄付（下関市遊技場防犯組合）

■ホール

- 海峡花火大会実行委員会に対して、協賛金20万円を寄付（PSJグループ）
- 下関海響マラソン実行委員会に対して、協賛金10万円を寄付（PSJグループ）
- 下関市交通安全日（1の付く日）及び交通安全運動期間中、ホール周辺地域の通学路、交差点において見守り活動を実施（PSJ綾羅木店）



フードバンクに食品を寄付【写真①】



寄付金の贈呈式【写真②】

広島県 広島県遊技業協同組合 延川章喜 理事長

■県遊協

- 社会貢献及び青少年健全育成の一環として、平成24年から県遊協青年部において、広島県内の児童養護施設へのクリスマス慰問を実施。本年は尾道市三美園を訪問し、お菓子や20万円を贈呈し施設長から感謝状を受領。これまでの支援額は500万円以上【写真①】
- 社会貢献の一環で、県下ホールが総付景品などに購入するジュースに「年賀シール」を添付する作業代金（1本2円）約11万円を贈呈【写真②】

■支部

- 平成6年から少年ソフトボール大会に40万円を援助し、青少年の健全育成活動を継続実施（広島市遊技業防犯協力会）
- 広警察署での自転車盗防止活動に協賛し、ワイヤーロック錠1,000本を寄付し、広駅・新広駅前で警察官と支部員が合同で自転車利用者に配布するなどの街頭活動を実施（広島市遊技業防犯協力会）

■ホール

- 社会貢献活動の一環として、継続して事業に取り組んでおり、きょうされん（障がい者就労支援施設）で働く方々をグループ施設に招待し、ゲームやボウリング等で楽しんでいただき、支援金10万円、車イス1台（6万円）を贈呈（フローバグループ）



児童養護施設へのお菓子等をプレゼント【写真①】



年賀シールの添付作業を依頼し作業代金を寄贈【写真②】

徳島県 徳島県遊技業協同組合 佐藤公治 理事長

■県遊協

- とくしまパチンコ・パチスロファン感謝デーと四国合同パチンコ・パチスロファン感謝デー開催告知TVCMの中で特殊詐欺の注意喚起を実施【写真①】
- 防犯協会に賛助会員として支援

■ホール

- 子ども食堂にお米を寄贈（株式会社グランド商事・アドバンス）
- ホール周辺の清掃活動を実施（123阿南店、G-ONE二軒屋、G-ONEいちえんや、パーラーグランド本店等）
- 松島スポーツ少年団に協賛金を寄付（nikko上板イオンタウン店）



TVCMの中で放映した還付金詐欺への注意喚起【写真①】

香川県 香川県遊技業協同組合 文 基源 理事長

県遊協

- 第3回香川パチンコ・パチスロの日に伴う新しい企画として各ホールに設置したBOXにお客様から端玉、景品等の食品類を好意で入れていただく『え〜ことプロジェクト』を実施。組合員、非組合員店舗計60ホールから集まった合計287.4kgの食品等を特定非営利活動法人フードバンク香川へ寄贈【写真①】
- 香川県防犯協会連合会へ50万円寄付
- かがわパチンコ・パチスロファン感謝デーによる社会貢献活動の一環として、特定非営利活動法人フードバンク香川へ米100kgを寄贈

ホール

- 県内7自治体に昭和62年から毎年児童図書購入資金を贈呈（株式会社たまや）
- ホール駐車場の一部を高松市の移動図書館に提供（アイゼン上之町店）【写真②】
- 営業所周辺地域清掃を週一回（30分間・各拠点）年間40〜45回実施（株式会社グランド商事・アドバンス）



287.4kgの食品等をフードバンク香川へ寄贈【写真①】



ホール駐車場を移動図書館に提供【写真②】

愛媛県 愛媛県遊技業協同組合 山路大助 理事長

県遊協

- テレビ・ラジオ局に「子どもの車内放置事故防止」を呼びかけるCMを放送し地域安全活動に貢献し、感謝状を受領【写真①】
- 愛媛県交通安全協会に道路横断旗1,000本を寄贈して県下の交通安全に貢献
- 暴力団根絶広報啓発に協力するため、愛媛県暴力追放推進センターに30万円を寄付。さらに新聞紙やポスターでの広報活動を支援して暴追運動に貢献

支部

- 松山市を中心とする4地区の防犯協会にそれぞれ防犯グッズ等を寄贈（中予地区遊技業防犯協力会）

ホール

- 映画 新居浜物語「青いライオン」について、日本全国および海外への普及活動に協賛（合同会社日光商事）【写真②】
- 今治市に対して大規模山林火災の被災者支援金1,000万円を寄付。さらに被災者や消火活動の従事者に対して入浴券300枚を寄付（キスケ株式会社）



地域安全活動に対し、感謝状を受領【写真①】



協賛した映画「青いライオン」のポスター【写真②】

高知県 高知県遊技業協同組合 山本直紀 理事長

県遊協

- 「愛の献血キャンペーン」として、組合員駐車場を貸し出し、同所での献血実施者及び組合員献血実施者に飲料水を提供
- 児童養護施設にて、高知ユナイテッドSC選手サッカー教室を実施
- 福祉協議会へ飲料を寄贈【写真①】

ホール

- 高知市へ転落防止柵設置（株式会社玉井）
- ホール周辺の清掃活動を実施（組合各ホール）
- 児童福祉施設等にお菓子を寄贈（組合各ホール）



飲料の寄贈式【写真①】

福岡県 福岡県遊技業協同組合 平岡聖教 理事長

県遊協

- 児童養護施設で暮らす児童を対象とした「第18回こども絵画コンクール」を開催
- 社会福祉施設にテーマパーク入場券やお菓子、図書券等を寄贈
- 福岡県に対しこども食堂支援のため100万円を寄付【写真①】
- 県警察と共同し、詐欺撲滅対策動画を作成【写真②】
- PP奨学金へ支援

支部

- 博多防犯協会に防犯ブザー600個を寄贈（博多遊技場防犯組合）
- 各地域の暴力追放大会ほか、詐欺撲滅等防犯キャンペーンに参加

ホール

- 社会福祉協議会や児童福祉施設等にお菓子を寄贈
- 近隣住民と共同し、安全・安心みまもり活動や清掃活動に従事



子ども食堂支援のための寄付金贈呈式【写真①】



福岡県警察と共同して作成した詐欺撲滅動画【写真②】

佐賀県 佐賀県パチンコ・パチスロ店協同組合 新富和紀 理事長

■県遊協

- 県内ファミリーホームと児童養護施設の子どもたちを招待して、芸人はなわさんのミニライブやトークを楽しんでもらう「はなわさんとわくわく交流会」を開催（参加者53名）。はなわさんから一人ひとりに名前入りのサインをプレゼント【写真①】
- 県内の児童養護施設（5施設）とファミリーホーム（6ホーム）に、佐賀県産米（新米）計330kgを寄贈【写真②】
- 災害支援ボランティア団体の一般社団法人おもやいに吸水土嚢170袋を寄贈

■ホール

- オレンジリボン運動に賛同し、全社員が勤務中は子ども虐待防止シンボルマーク＝オレンジリボンを胸につけ、子どもへの虐待防止をPR（株式会社新富商事）
- 「地域とつながるプロジェクト（地域で活動されている方々への寄贈）」を実施。お客様からの募玉・募メダル、スタッフ間の「ありがとうカード」の枚数を金銭換算して積み立てた資金を5団体に寄贈（株式会社新富商事）
- 佐賀県が企画協力しているアニメ「ゾンビランドサガ」のコレクションをホール内に多数展示。ファンが聖地巡礼のコースとして来店することも多いため、アニメに登場する「歴史民俗資料館」やホール周辺の清掃活動を遊技客やアニメファンに呼びかけ実施（まるみつ三日月店）



子どもたちを招待してイベントを開催【写真①】



新米の寄贈式【写真②】

長崎県 長崎県遊技業協同組合 松尾道彦 理事長

■県遊協

- 長崎市子ども食堂ネットワークや児童擁護施設へ寄付
- 子ども食堂へ炊飯器など家電を寄贈【写真①】
- 児童養護施設でプロ野球選手との交流会を開催【写真②】

■支部

- 長崎被害者支援センター、長崎地区防犯協会に寄付（長崎市遊技場組合）

■ホール

- 社会福祉法人や児童福祉施設にお菓子を寄贈（組合各ホール）
- ホール周辺や近隣の清掃活動を実施（組合各ホール）



寄付金の贈呈式【写真①】



児童養護施設でのプロ野球選手との交流会を開催【写真②】

熊本県 熊本県遊技業協同組合 藤井俊博 理事長

■県遊協

- 熊本県内の12カ所の児童養護施設に合計約67万円を寄付
- 子ども食堂ネットワーク3団体に合計100万円を寄付
- 電話による特殊詐欺被害を防ぐため新マスコットを活用した啓発に協力【写真①】

■支部

- 日本赤十字社熊本県支部に100万円を寄付（熊本市遊技業協同組合）
- 人吉警察署に防犯カメラを寄贈（人吉遊技場防犯組合）
- 地域福祉の推進と住民の交流を目的とした「第20回菊池こころのネットワークフェア」に協賛（菊池地区遊技業組合）

■ホール

- 自治協議会による認知症予防企画に協力し、老人会の方を中心に健康体操やパチンコ体験会を実施（まるみつ東バイパス店）
- 地域貢献プロジェクトとして田植えから稲刈りまで行い、収穫したお米を子ども食堂や児童養護施設（約40施設）へ寄贈（株式会社福徳開発）
- 児童養護施設や子ども食堂にお菓子を寄贈（組合各ホール）



「電話で『お金』詐欺」被害防止キャンペーンに協力【写真①】

大分県 大分県遊技業協同組合 岩田憲行 理事長

■県遊協

- 大分県警察本部に自転車盗難対策用機器50セットを寄贈【写真①】
- 大分社会福祉協議会に緊急簡易土のう335枚を寄贈
- 大分市に佐賀関大規模火災義援金として100万円寄付
- 大分合同福祉事業団に車いすマラソンの運営資金を寄付
- 大分合同福祉事業団に歳末助け合い金を寄付【写真②】

■支部

- 別府市社会福祉協議会に標語パネルを寄贈（別府遊技場組合）
- 大分市に佐賀関大規模火災義援金として20万円寄付（大分東遊技場組合）

■ホール

- 大分市役所に佐賀関大規模火災義援金として100万円寄付（株式会社大林観光）
- 社会福祉法人や児童福祉施設、子ども食堂にお菓子等を寄贈（組合各ホール）



大分県警察本部で行った寄贈式【写真①】



寄付金の贈呈式【写真②】

宮崎県 宮崎県パチンコ・パチスロ協同組合 岩下政稔 理事長

■県遊協

- MRT子ども応援プロジェクトに子ども食堂の支援金として約240万円を寄付
- UMKテレビ宮崎の防災企画に賛同し約130万円を寄付
- クリスマスに養護施設や社会福祉施設に青年部役員がサンタに扮し出向き、希望商品をプレゼント【写真①】

■支部

- 高齢者福祉施設に車いす24台を寄贈（宮崎地区遊技業防犯組合）【写真②】

■ホール

- 延岡市、日向市、門川町、椎葉村、美郷町に交通安全と事故防止のためランドセルカバー1,582枚を寄贈（株式会社西の丸）
- 社会福祉法人や児童福祉施設、子ども食堂にお菓子を寄贈（組合各ホール）



クリスマスに希望の商品をプレゼント【写真①】



車いすの寄贈式【写真②】

沖縄県 沖縄県パチンコ・スロット協同組合 新垣善彦 理事長

■県組合

- 社会福祉や子どもの貧困対策、地域活動などに関わる団体や個人へ助成するパチンコ・スロット助成を実施。今年度は13団体に助成【写真①】
- 青年部会がヤクルトスワローズのOB選手を招いた少年野球教室を開催【写真②】
- チャリティゴルフ大会を開催し、集まった浄財を「沖縄こども未来プロジェクト」「りゅうちゃん子供の希望募金」へ寄付

■ホール

- 県内で活動しているボランティア、団体に対し支援金を寄贈（株式会社サンシャイン）
- 児童福祉施設や社会福祉協議会、子ども食堂等にお菓子、食料品を寄贈（県内各ホール）



助成金の贈呈式【写真①】



少年野球教室を開催【写真②】

一般社団法人 パチンコ・パチスロ社会貢献機構 協賛パートナー一覧

（2026年7月1日現在）

J-NET株式会社

株式会社そごう・西武

ぺんてる株式会社

株式会社ヤクルト本社

株式会社ロッテ

鹿児島県 鹿児島県遊技業協同組合 手崎朋彦 理事長

■県遊協

- 鹿児島県交通被災者たすけあい協会に交通事故で親を亡くしたり、親が重度障がいになった子ども達にランドセルの購入支援のため約150万円を寄付
- 鹿児島県防犯協会、鹿児島県暴力追放運動推進センター、かごしま犯罪被害者支援センター等に寄付【写真①】
- 鹿屋市で開催された暴力追放県民大会に参加
- 始良市及び霧島市に、緊急用吸水土のう1,065枚を寄付【写真②】

■支部

- 西地区防犯連に青パトの燃料費を寄付（鹿児島市遊技事業組合）

■ホール

- 児童福祉施設や社会福祉協議会にお菓子を寄贈（組合各ホール）
- ホール周辺や近隣の清掃活動を実施（組合各ホール）

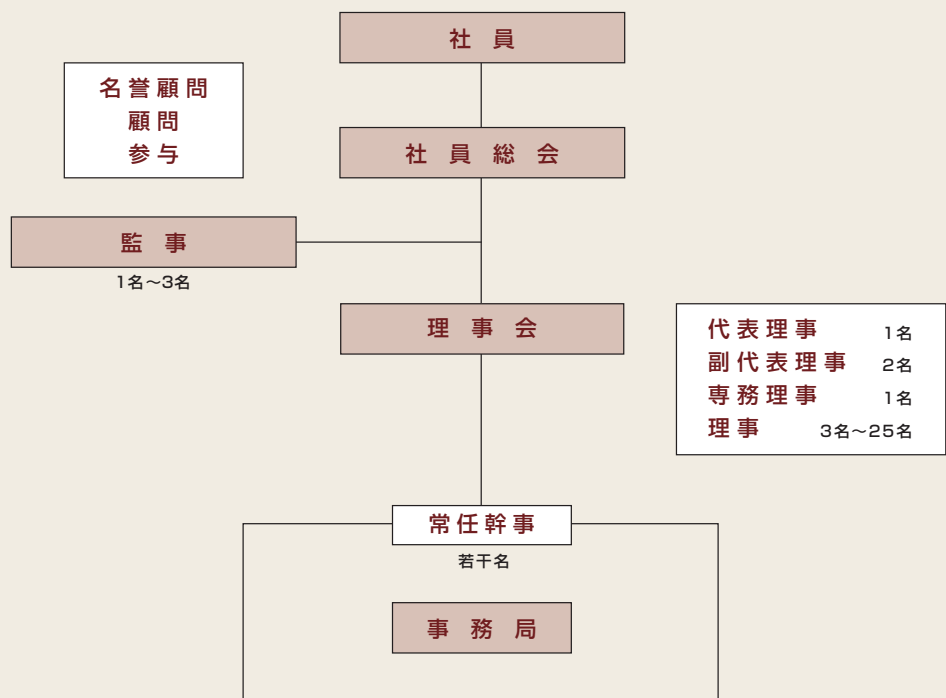


寄付金の贈呈式【写真①】



吸水土のうを寄贈【写真②】

一般社団法人 パチンコ・パチスロ社会貢献機構 組織図



役員【2026年7月1日現在】

■代表理事



宮廻 正明
東京藝術大学 名誉教授

■副代表理事



野口 昇
日本ユネスコ協会連盟
顧問



阿部 恭久
全日遊連 理事長

■専務理事



廣田 卓也
元NHK 松山放送局 副局長

■理事



赤松 広隆
元衆議院 副議長
元農林水産大臣



荒生 均
元亀田製菓 常務執行役員



上野 公成
住宅産業研修財団 理事長



田中 哲二
中国研究所 会長
中央ユーラシア総合調査会 理事長
国士舘大学大学院 客員教授



永井 多恵子
国際演劇協会日本センター 会長



脇田 直枝
日本文化芸術財団 理事
クリエイティブ・ディレクター



太田 裕之
全日遊連 専務理事



松尾 道彦
全日遊連 副理事長

■監事



高橋 孝一郎
税理士



原 一夫
税理士

■参与

安井 康雄
元全日本社会貢献団体機構 専務理事

■常任幹事

荒生 均
元亀田製菓 常務執行役員

榊原 光裕
元全日本社会貢献団体機構 専務理事

進藤 勇治
元通産省企画官

星野 謙
全日遊連 副理事長

松尾 道彦
機構 理事

松谷 輝矢
全日遊連 事務局長

毛利 秀美
機構 事務局長

■オブザーバー

川北 秀人
人と組織と地球のための国際研究所

■事務局

事務局長
毛利 秀美
元NHK 部長

一般社団法人 パチンコ・パチスロ社会貢献機構 定款

第1章 総則

第1条 (名称)

当法人は、一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構（以下「機構」という。）と称する。英文では Pachinko-Pachislot Organization of Social Contribution とし、略称を POSC と表示する。

第2条

（主たる事務所の所在地）

機構の主たる事務所は、東京都新宿区に置く。

第3条 (目的)

機構は、社会貢献事業が社会を支える極めて重要な活動であるとの観点に立ち、遊技産業（風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第2条第1項第4号に規定する営業（ぱちんこ屋及び同法施行令第8条に規定する営業に限る。）及び当該営業に係る事業をいう。以下同じ。）並びに公的機関及び民間団体と連携しながら、文化及び芸術の振興、平和で住みよい社会づくり並びにパチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む民間団体及び研究機関に対する支援などの社会貢献活動を推進することを目的とする。

第4条 (事業)

機構は、前条に定める目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。
（1）民間団体及び研究機関（本条において、以下「民間団体等」という。）が行う活動及び研究（本条において、以下「活動等」という。）に対する助成
（2）民間団体等が行う活動等に対する顕彰
（3）民間団体等が行う活動等の現状と今後の可能性を考えるフォーラム等の開催
（4）前3号の事業その他の機構が推進する社会貢献活動に関する報告書の作成及び配布その他広報活動の推進
（5）その他機構の目的を達成するために必要な事業

第5条 (公告の方法)

機構の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法で行う。

第2章 社員

第6条

（社員資格と入社）

遊技産業に係る団体で機構の目的に賛同する者は、理事会の議決を経て、機構の社員となることができる。

第7条 (経費の負担)

（1）社員は、機構を運営するために必要な経費を支払わなければならない。
（2）社員が支払う経費の額は、社員総会の決議により定める。

第8条 (社員の退社)

（1）社員は、3か月前までに退社届を提出することによって、任意に機構を退社することができる。
（2）社員は、退社届の提出後においても、退社の時まで前条に定める経費の支払い義務を負うものとする。
（3）社員は、第1項に定める場合のほか、次の各号に掲げる事由により当然に退社する。
①破産、民事再生又は会社更生等の法的倒産手続開始の申立てがあったこと
②前条に定める経費の支払いを6か月以上滞納し、催告にもかかわらず支払わなかったこと
③総社員の同意
④解散
⑤除名

第9条 (社員の除名)

（1）社員が次の各号に掲げる事由の一に該当する場合は、総社員の半数以上であって、総社員の議決権の3分の2以上の議決権を有する者の賛成を得た社員総会の決議により除名することができる。
①機構の名誉を毀損し、又は機構の目的に反する行為をしたとき
②機構の定款又は社員総会の決議に違反する行為をしたとき
（2）前項の定めにより社員を除名する場合には、機構は、当該社員に対し、除名の決議を行う社員総会の日から1週間前までにその旨を通知し、かつ、当該社員総会において弁明の機会を与えなければならない。

第3章 社員総会

第10条 (社員総会)

（1）社員総会は、定時社員総会及び臨時社員総会とし、いずれもすべての社員をもって構成する。
（2）定時社員総会は毎年6月に開催し、臨時社員総会は必要に応じて開催するものとする。
（3）社員総会の開催は理事会において決定し、代表理事が招集する。
（4）社員総会を招集するときは、開催日の14日前までに、各社員に対し、開催日時、場所及び議題を記載した書面又は電磁的方法によって通知を発しなければならない。

第11条 (議長)

（1）社員総会の議長は、代表理事がこれを行う。
（2）代表理事に事故があるときは、あらかじめ理事会の定める順序により、他の理事がこれを行う。

第12条 (決議の方法)

（1）社員総会の議事は、法令又は定款に別段の定めがある場合を除き、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席し、出席した社員の議決権の過半数をもって決する。
（2）理事又は社員が社員総会の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき社員の全員が書面又は電磁的方法によって同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

第13条 (議決権)

社員の議決権の個数は、社員総会の決議により定める当該事業年度の経費負担の割合（当該事業年度の経費負担の割合に関する社員総会の決議がない場合には、前事業年度における割合とする。）に応じて次のとおりとする。ただし、設立後、経費負担の割合に関する決議がなされるまでの間に開催される社員総会においては、社員は各1個の議決権を有するものとする。

経費負担の割合が 0 % を超え	5 % 未満の場合	1 個
経費負担の割合が 5 % 以上で	1 0 % 未満の場合	2 個
経費負担の割合が 1 0 % 以上で	1 5 % 未満の場合	3 個
経費負担の割合が 1 5 % 以上で	2 0 % 未満の場合	4 個
経費負担の割合が 2 0 % 以上で	2 5 % 未満の場合	5 個
経費負担の割合が 2 5 % 以上で	3 0 % 未満の場合	6 個
経費負担の割合が 3 0 % 以上で	3 5 % 未満の場合	7 個
経費負担の割合が 3 5 % 以上で	4 0 % 未満の場合	8 個
経費負担の割合が 4 0 % 以上で	4 5 % 未満の場合	9 個
経費負担の割合が 4 5 % 以上で	5 0 % 未満の場合	1 0 個
経費負担の割合が 5 0 % 以上で	5 5 % 未満の場合	1 1 個
経費負担の割合が 5 5 % 以上で	6 0 % 未満の場合	1 2 個
経費負担の割合が 6 0 % 以上で	6 5 % 未満の場合	1 3 個
経費負担の割合が 6 5 % 以上で	7 0 % 未満の場合	1 4 個
経費負担の割合が 7 0 % 以上で	7 5 % 未満の場合	1 5 個
経費負担の割合が 7 5 % 以上で	8 0 % 未満の場合	1 6 個
経費負担の割合が 8 0 % 以上で	8 5 % 未満の場合	1 7 個
経費負担の割合が 8 5 % 以上で	9 0 % 未満の場合	1 8 個
経費負担の割合が 9 0 % 以上で	9 5 % 未満の場合	1 9 個
経費負担の割合が 9 5 % 以上で	1 0 0 % 未満の場合	2 0 個

第4章 役員

機構に次の各号に掲げる役員を置く。

①代表理事1名

②副代表理事2名

③専務理事1名

④理事3名以上25名以内（代表理事、副代表理事及び専務理事である理事を含む。）

⑤監事1名以上3名以内

第14条（役員）

第15条（選任）

(1) 理事及び監事は、社員総会において選任する。

(2) 代表理事、副代表理事及び専務理事は、理事の中から理事会において選定する。

第16条（職務）

(1) 代表理事は、機構を代表し、機構の業務を執行するものとし、当該自己の職務の執行状況を毎事業年度に4か月を超える間隔で2回以上の頻度で理事会に報告しなければならない。

(2) 副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。

(3) 専務理事は、代表理事を補佐して機構の業務を執行する。

第17条（任期）

(1) 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。

(2) 補欠又は増員による理事の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

(3) 補欠による監事の任期は、前任者の残任期間とする。

(4) 理事及び監事は、再任することができる。

(5) 理事及び監事は、辞任し、又はその任期が満了した場合においても、後任者が就任するまでの間は、従前の職務を行わなければならない。

第18条（報酬）

理事及び監事の報酬は、社員総会の決議により定める。

第5章 理事会

第19条

(理事会の設置、構成及び開催)

(1) 機構に理事会を置く。

(2) 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(3) 理事会は、毎事業年度に4か月を超える間隔で2回以上の頻度で開催しなければならない。

第20条（招集）

(1) 理事会は、代表理事が招集する。

(2) 理事会を招集するときは、開催日の7日前までに、各理事及び監事に対し、開催日時、場所及び議題を記載した書面又は電磁的方法によって通知を発しなければならない。

第21条（議長）

(1) 理事会の議長は、代表理事がこれを行う。

(2) 代表理事に事故があるときは、あらかじめ理事会の定める順序により、他の理事がこれを行う。

第22条（決議の方法）

(1) 理事会の議事は、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、出席した理事の過半数をもって決する。

(2) 理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的方法によって同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

第23条（議事録）

理事会の議事については、書面をもって議事録を作成し、代表理事及び監事は、これに署名し、又は記名押印しなければならない。

第6章 計算等

第24条（事業年度）

機構の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第25条（計算書類等）

代表理事は、毎事業年度終了後3か月以内に、計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認後、定時社員総会の承認を受けなければならない。

第26条

(剰余金の分配)

機構は、剰余金の分配を行わない。

第27条

(残余財産の帰属)

機構が解散した場合における残余財産は、国若しくは地方公共団体又は公益社団法人、公益財団法人若しくは公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号イからトまでに掲げる法人に帰属させる。

第7章 その他

第28条（細則）

この定款に定めるもののほか、機構の業務を執行するために必要となる事項は、理事会の議決を経て、代表理事が定める。

付 則

第1条

(最初の事業年度)

機構の最初の事業年度は、機構成立の日から2020年3月31日までとする。

第2条

(設立時の役員)

(1) 機構の設立時の理事は、次に掲げるとおりとする。

赤松広隆

阿部恭久

上野公成

大野春光

小野良樹

末松信介

杉浦正健

田中哲二

永井多恵子

野口 昇

廣田卓也

松尾道彦

松尾守人

吉田雅巳

脇田直枝

(2) 機構の設立時の監事は、次に掲げるとおりとする。

霜島 敦

高橋孝一郎

原 一夫

(3) 機構の設立時の代表理事は、次に掲げるとおりとする。

杉浦正健

(4) 機構の設立時の副代表理事は、次に掲げるとおりとする。

阿部恭久

野口 昇

(5) 機構の設立時の専務理事は、次に掲げるとおりとする。

廣田卓也

第3条

(設立時の社員)

機構の設立時の社員は、次に掲げるとおりとする。

(1) 東京都新宿区市ヶ谷左内町 8 番地

全日本遊技事業協同組合連合会

(2) 東京都新宿区市ヶ谷左内町 8 番地

全日本遊技事業防犯協力会連合会

編集後記

「POSC's 2025 社会貢献活動年間報告書」の発行にあたって

当機構は2005年12月に創立してから21周年を迎えます。

全日本社会貢献団体機構としてスタートし、平成から令和に変わった2019年11月に組織を再編し「一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構」に変わりました。

発足当時から、平和で住みよい社会づくりに貢献していくために、子どもの健やかな成長のための事業をはじめ、命を大切に研究事業、学術・文化の振興に関する活動等に助成を行ってきました。この活動に各方面から評価とご期待をいただいています。また、社会貢献大賞など、会員の顕彰事業にも積極的に取り組んでまいりました。

設立から20年の節目を境に、当機構はこの2年間大幅な業務改革を行い全体予算のスリム化を進めてまいりました。そのような中でも、助成事業は当機構の根幹事業であります。「パチンコ・パチスロ依存問題に取り組む民間団体等への支援」については、昨年度同様、幅広い分野の団体に支援しております。もうひとつ「子どもの健全育成に取り組む事業への支援」については、

今を生きる子ども達への支援と、子ども達の明るい未来への投資となるような活動に積極的に助成を行っております。

さらに、2026年度からは理事会から要請があった「全国規模の団体への助成」を実現するため、今年度は犯罪被害者支援の2団体に特別助成を行うこととしました。

特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワークへの特命助成を継続して行います。

今年も年間報告書のフルサイズ版(80頁)はHPに掲載するとともに、関係者・関係機関に冊子をお届けします。ダイジェスト版(16頁)とパチンコ・パチスロ依存問題への支援活動報告(8頁)は、全国の図書館、自治体、警察、経済界など各方面にお送りします。当機構や遊技業界の社会貢献活動へのご理解を深めていただければ幸いです。

2026年7月吉日
一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構
事務局長 毛利 秀美

POSC (Pachinko-Pachislot Organization of Social Contribution の略称です)

2025 社会貢献活動年間報告書

■発行日:2026年7月22日

■編集・発行:一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構

〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町16 市ヶ谷見附ハイム103

<https://www.posc.or.jp>

■編集協力:株式会社 計画制作社